

## 平成 22 年度老人保健健康増進等事業報告書

全国の市区町村における官民産学が協働した  
認知症地域支援体制づくりの着実な展開にむけた総合的推進に関する  
調査研究事業

### 事業報告書 別冊1

# 地域づくり事例篇

(認知症でもだいじょうぶ 町づくりフォーラム配布資料)

平成 23 年 3 月

社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター

# 目次

1. 町づくりはどこまで進んだか	
～全国都道府県・市区町村認知症地域支援体制づくり推進に関する現況調査より～	1
2. わが地域の歩みとこれからに向けて	9
<報告1:埼玉県・小鹿野町>	
○認知症になっても家族が認知症でも地域で安心して暮らせる埼玉を目指して	9
○安心して暮らせる町づくりを町民とともにめざして 「七転び八起きの小鹿野町のあゆみ」	13
<報告2:岸和田市・大阪府>	
○認知症地域資源ネットワーク構築 ～モデル事業が終わってからの1年～	26
○大阪府における認知症地域支援体制構築等推進事業の取り組み状況	33
<報告3:富士宮市(静岡県)・南足柄市(神奈川県)>	
○わが地域のあゆみとこれからに向けて	43
○富士宮市からのメッセージを受けて ～南足柄市の取り組み～	50
<報告4:山鹿市(熊本県)>	
○地域資源がつながり、ともに動ける協働のしくみをつくろう	58

認知症でもだいじょうぶ 町づくりフォーラム（平成23年3月4日）会場風景  
品川セントラルビル「グランドホール」にて開催（主催：認知症介護研究・研修東京センター）



# 1

## 町づくりはどこまで進んだか

全国都道府県・市区町村  
認知症地域支援体制づくり推進に関する調査結果より

認知症でもだいじょうぶ 町づくりフォーラム

## 町づくりはどこまで進んだか

全国都道府県・市区町村  
認知症地域支援体制づくり調査結果より

認知症介護研究・研修東京センター  
研究部副部長・ケアマネジメント推進室 永田 久美子



認知症になっても、この町で自分らしく生ききろう！  
全国各地で、その実現にむけた「町づくり」が着実に進んでいます。



### 認知症の人と家族を支える町づくり

- ◇今 どこまで進んできているのか？
- ◇これから  
何をめざして  
何を大切に  
どのように進めていけばいいのか？

全国各地の試行錯誤に学びつつ  
各立場の人々が「つながりあって」動き出そう。

## 認知症と家族を支える町づくり推進の歩み

- ・1980年代から、その必要性が介護する家族や支援関係者から提起され続けてきた。
- ・1990年代、認知症の人と家族を地域で支える町づくりが各地で始まるが、その地域外にはなかなか広がらない。
- ・1995年、警察庁生活安全局通達  
「はいかいSOSネットワークシステムの構築について」
  - 一時期、全国的に広がるが・・・
  - 担当者の交代、制度の変遷の中で多くの地域で形骸化

**\* 認知症の人と家族を支える地域ぐるみの支援体制を、  
「いかに持続的に発展させるか」が  
歴史の教訓！**

### 町づくりを国が推進

- ・2003年に示された「2015年の高齢者介護」において認知症の人と家族を地域で支える仕組みの必要性が提起される。
- ・2005年度、国の「認知症を知り、地域をつくる10ヶ年構想」に基づく全国キャンペーンがスタート。

### 都道府県が推進主体

- ・2007年度から認知症地域支援体制構築等推進事業がスタート
  - \* 資源を増やすのみでなく、地域資源のネットワークを築きつながりあって、認知症の人と家族を支えあう体制をつくる
  - \* **モデル事業4年間で46都道府県 213の自治体/地域が展開**
  - \* 都道府県⇒市区町村⇒都道府県管内の他区市町村へ波及

### 市区町村が推進主体

- ・2011年度から、推進主体は「市区町村」村 ←都道府県・国がバックアップ  
認知症地域支援施策推進事業⇒市町村認知症施策総合推進事業

わが町の未来へ

## 今、町づくりはどこまで進んでいるか？

**\* 今後、実質的な取組みを進めていくために、  
まずは「町づくり」の推進の現状を確認しよう。**

「認知症地域支援体制づくり推進に関する現況調査」を実施  
認知症介護研究・研修東京センターケアマネジメント推進室

◇ **全国都道府県調査**（2010年8月～）

◇ **全国市区町村調査**（2010年10月～）

## 都道府県調査：認知症地域支援体制づくり推進に関する現況(暫定)

【N=36】 認知症介護研究・研修東京センター

### ●都道府県における管内市区町村の認知症地域支援体制づくりの課題の把握・分析について(複数回答)

市区町村の取り組みにおける課題を把握している	27.8%
把握した課題を都道府県として、今後の市区町村支援に活かすための分析・検討を行っている	13.9%
課題の把握・分析は特に行っていない	61.1%

### ●都道府県における管内市区町村の認知症地域支援体制づくりの成果の把握・集約について(複数回答)

市区町村が取り組んだ成果を把握している	27.8%
把握した成果を、他の市区町村が活かしていけるよう集約している	36.1%
成果の把握・集約は特に行っていない	38.9%

### ●都道府県による各市区町村の認知症コーディネーターの養成や力量向上を図るための支援

平成21年度に実施	11.1%
平成22年度実施(予定)	16.7%
平成22年度実施を検討中	5.6%
なし	66.7%
計	100.0%

### ○管内市区町村の認知症地域支援体制づくりの取り組みの現状

全市区町村が取り組んでいる	22.2%
半数以上の市区町村が	16.7%
4分の1以上の市区町村が	5.6%
4分の1未満の市区町村が	19.4%
把握していない	36.1%
計	100.0%

都道府県により  
推進状況に  
大きな違い

市区町村の  
取り組みの  
広がり  
大きな違い

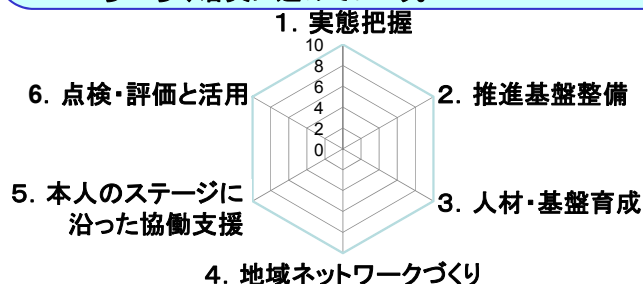
\*来年度以降、市区町村をバックアップする役割がますます重要に!

## 市区町村調査：認知症地域支援体制づくり推進に関する現況(暫定)

【N=913】 認知症介護研究・研修東京センター

### 調査のねらい

- ◇わが町の認知症地域支援体制づくりの進捗状況をセルフチェックしてみよう。 \*モデル事業実施の有無で比較
- ◇今後、市区町村が計画的・継続的に取り組みを進めていくための基礎になるデータを把握しよう。
- ◇毎年、進捗状況を確認しながら、わが町の取り組みを一步一步、着実に進めていこう。



## 市区町村調査：1. 実態把握の現況

【N=913】 認知症介護研究・研修東京センター

### ○認知症高齢者数の把握

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
調査で把握	16.1	25.6	14.1
推計把握	19.7	36.1	16.8
他	14.9	15.1	15.0
していない	49.3	23.3	54.2
計	100.0	100.0	100.0

参考:「介護保険の認定調査結果」で実数把握を行った市区町村(104)の認知症高齢者率の平均値 9.1%  
全国の試算数 約270万人 \*介護保険の認定者

全国の高齢者の概数:29,440,000 総務省統計局 (H22.9.15現在)

### ○徘徊行方不明者数の把握

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	19.4	23.3	18.5
していない	77.9	72.9	79.0
無回答	2.8	3.8	2.5
計	100.0	100.0	100.0

### ○認知症の本人の困りごとと要望の把握

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	8.2	12.0	7.5
していない	91.3	88.0	92.0
無回答	0.4	0.0	0.6
計	100.0	100.0	100.0

### ○認知症の人の家族の困りごとと要望の把握


	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	24.2	44.4	20.9
していない	75.7	55.6	79.0
無回答	0.1	0.0	0.1
計	100.0	100.0	100.0

市区町村調査: 1. 実態把握の現況			
○認知症の人と家族を地域で支えるための地域資源の把握			
	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	31.8	55.6	26.8
していない	67.8	43.6	72.8
無回答	0.4	0.8	0.4
計	100.0	100.0	100.0

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
町内会・自治会	47.8	68.4	43.3
老人クラブ・婦人会	52.2	67.7	49.0
民生児童委員	83.1	94.7	80.3
警察署	50.8	72.9	46.7
消防署・消防団	30.6	50.4	27.0
社会福祉協議会	71.4	86.5	68.3
権利擁護機関	27.2	44.4	24.1
家族の会、家族会	37.8	63.2	33.3
学校(小中高)	16.2	31.6	13.4
企業・団体	16.1	36.8	12.3
交通機関	13.1	27.1	10.7
地域のマスコミ	10.4	28.6	7.3
介護事業者地域組織	54.9	72.2	51.8
医療事業者地域組織	34.6	52.6	31.2
認知症疾患医療センター	14.5	21.8	7.3
認知症サポート医	19.3	45.1	14.6
認知症連携担当者	14.6	27.1	12.0
認知症介護指導者	10.6	24.1	8.3
サービス評価機関	5.4	7.5	4.9

○市区町村が連携をはかっている  
民産学官の組織・人材 

市区町村調査: 2. 推進基盤の整備の現況			
【N=913】 認知症介護研究・研修東京センター			
○市区町村としてのビジョンの策定		○包括が認知症地域支援体制づくりを進めるための行政としての積極的支援	
	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	29.1	64.7	23.2
していない	70.7	34.6	76.7
無回答	0.2	0.8	0.1
計	100.0	100.0	100.0

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	60.1	92.5	54.5
していない	38.9	7.5	44.3
無回答	0.9	0.0	1.2
計	100.0	100.0	100.0

○次期の行政計画に、推進策を盛り込む予定		○市区町村としての推進組織・チームの設置	
	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
ある	53.7	81.2	48.9
ない	41.1	14.3	45.7
無回答	5.3	4.6	5.4
計	100.0	100.0	100.0

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	5.0	17.3	2.8
していない	43.6	24.8	47.1
無回答	51.4	57.9	50.1
計	100.0	100.0	100.0

市区町村調査: 3. 認知症地域支援体制づくりに関する人材等の育成			
【N=913】 認知症介護研究・研修東京センター			
○行政事務職が認知症・地域支援を学ぶ		○地域で広げる普及役の人材育成	
	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
行っている	43.0	72.2	37.4
行っていない	56.7	27.8	62.3
無回答	0.2	0.0	0.2
計	100.0	100.0	100.0

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
行っている	43.7	70.0	38.5
行っていない	55.6	29.3	61.0
無回答	0.6	0.8	0.5
計	100.0	100.0	100.0

○医師と介護職の多職種合同の人材育成		○推進にむけた地域拠点づくり	
	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
行っている	13.0	23.3	11.1
行っていない	86.5	76.7	88.4
無回答	0.4	0.0	0.5
計	100.0	100.0	100.0

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
行っている	16.2	32.3	12.9
行っていない	83.1	67.7	86.2
無回答	0.6	0.0	0.8
計	100.0	100.0	100.0



**市区町村調査:4. 推進のためのネットワークづくりの工夫**  
(N=913) 認知症介護研究・研修東京センター

○認知症地域支援体制づくりに活かしている地域ネットワーク

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
見守りネットワーク	38.9	57.1	35.4
虐待防止ネットワーク	32.2	43.6	30.1
防災ネットワーク	10.3	18.0	8.9
子育て支援ネットワーク	3.6	4.5	3.3
自殺対策ネットワーク	2.7	3.8	2.3
地域再生ネットワーク	0.9	3.8	0.4
特に活かしていない	40.3	27.8	47.8

○本人・家族、住民、専門職が、地元で出会い、つながる機会づくり

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	34.4	50.3	31.8
していない	65.1	49.6	67.5
無回答	0.5	0.0	0.7
計	100.0	100.0	100.0

○認知症地域支援に関する情報を地域に向けて継続的に発信

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
している	52.6	80.4	48.1
していない	47.0	19.5	51.4
無回答	0.4	0.0	0.6
計	100.0	100.0	100.0

**市区町村調査:5. 当事者のステージにそった支援ネットワークの取組み**  
(N=913) 認知症介護研究・研修東京センター

○ネットワークが広がり相談が拡充

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
拡充している	32.8	57.9	28.9
拡充していない	34.9	24.1	37.0
実情を把握できていない	32.0	18.0	33.8
無回答	0.2	4.5	0.2
合計	100.0	100.0	100.0

○見守りSOSネットワークが広がり日常的な取組み

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
拡充している	23.0	40.4	20.0
拡充していない	43.6	34.6	45.4
実情を把握できていない	33.3	24.1	34.5
無回答	0.1	0.0	0.1
合計	100.0	100.0	100.0

○ネットワークが広がり早期発見・診断・支援の拡充

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
拡充している	23.0	41.4	20.0
拡充していない	43.6	34.6	45.4
実情を把握できていない	33.3	24.1	34.5
無回答	0.1	0.0	0.1
合計	100.0	100.0	100.0

○ネットワークを活かした地域資源マップ作成

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
作成している	19.9	60.1	12.0
作成していない	79.3	38.3	87.2
無回答	0.8	1.5	0.8
合計	100.0	100.0	100.0

**市区町村調査:6. 推進の点検・評価とその活用**  
(N=913) 認知症介護研究・研修東京センター

○進捗状況の点検・評価の実施

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
行っている	18.4	53.4	11.7
行っていない	80.9	46.4	87.5
無回答	0.7	0.0	0.8
計	100.0	100.0	100.0

○取組みや成果の報告会の開催

	全体	モデル事業実施地域	実施していない地域
行っている	14.8	41.4	9.8
行っていない	83.5	57.9	88.3
無回答	1.8	0.8	2.0
計	100.0	100.0	100.0

○認知症地域支援体の経年的な拡充

	全体	モデル事業 実施地域	実施していない 地域
拡充している	32.8	66.2	27.2
拡充していない	28.6	13.5	31.2
わからない・ 無回答	41.8	20.3	41.6
計	100.0	100.0	100.0

○行政の担当者としての手応え

	全体	モデル事業 実施地域	実施していない 地域
非常にある・ ある	40.3	73.6	34.8
ない	53.8	23.3	58.9
無回答	5.9	3.1	6.4
計	100.0	100.0	100.0



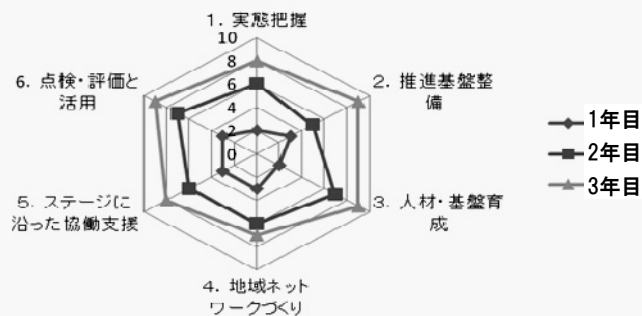
**\* 民産学官がつながって動き始めた。  
\* つながることで、新たな力が生まれ始めた。**

**今、再確認を！  
誰のための  
何を旨とした町づくり？**

**☆ 地元で暮らす本人と家族の声と実態から始めよう。  
☆ 取り組みが本人と家族に行き届いているのか  
最前線で努力している人達が  
生み出しつつある貴重な成果と課題の確認を**

**認知症の人と家族を支える町づくり**

- \* 行政・事業者・地域の人々がつながりを深めながら
- \* 本人と家族の声や実態に根差し
- 本人と家族に行き届く取組みに**
- 本人と家族とともに進む取組みに**
- \* 年々、着実に進展させていくためのビジョンと企画を



## 来年度を新たなスタートの年に！

☆進みつつある地域は  
地域にまだまだ眠っている底力を引き出しながら  
☆これから・・・の地域は、  
一足先に動き出した地域の豊富な経験・情報を  
どんどん吸収しつつ  
地元根差して  
多様な人と出会い、対話し、手をつないで



どこに住んでいても、自分らしく暮らせるように。

## \* 来年度も集まって、実践と知恵の交換をしよう！

全国合同セミナー 県での合同セミナー 市での合同セミナー



わが町のこれから、自分たちのこれからをいっしょに。

まちづくりに  
ゴールはなかくです。  
できることから、  
共に 始めまっしょい！



## 認知症でもだいじょうぶ 町づくりアーカイブス

みなさんの地域や地元情報をおよせください。

全国規模のまちづくりデータベースです。  
地元での取組みのパワーポイント資料や配布資料、成果物など  
みなさんの地域で生まれた情報をおよせください。  
もちろん、モデル事業実施以外の市町村や地域の情報も大歓迎です。

- お寄せいただいた情報は、セミナーやインターネットなど、さまざまな方法で全国にフィードバックします。
- この機会に、みなさんの地元の活動の情報の収集と提供をお願いします。

地元情報の提供やお問い合わせは、  
●メール: archives@itsu-doko.net  
●電話: 03-3334-1150

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室



## 2

### わが地域の歩みとこれからに向けて

#### 1. 埼玉県・小鹿野町

堀 達也 氏 (埼玉県福祉部高齢介護課)

加藤 千春 氏 (埼玉県小鹿野町地域包括支援センター)

#### 2. 大阪府・岸和田市

花川 勝美 氏 (大阪府高齢介護室介護支援課)

庄司 彰義 氏 (大阪府岸和田市保健福祉部高齢介護課)

#### 3. 富士宮市(静岡県)・南足柄市(神奈川県)

稲垣 康次 氏 (静岡県富士宮市保健福祉部福祉総合相談課)

鳥居 貴子 氏 (神奈川県南足柄市福祉健康部高齢介護課  
地域包括支援センター)

#### 4. 山鹿市(熊本県)

佐藤 アキ 氏 (熊本県山鹿市介護保険課)

福山 寿子 氏 (山鹿市認知症サポートリーダー1期生)

認知症になっても 家族が認知症でも  
地域で安心して暮らせる  
埼玉をめざして！

～埼玉県の認知症地域支援体制  
構築等推進事業のあゆみ～



埼玉県のマスコット  
コバトン

埼玉県福祉部高齢介護課 堀 達也

**埼玉県の高齢者数等**

- ◆人口 7,194,957 人、64市町村(平成22年10月1日現在)
- ◆高齢化率 20.0%(平成22年3月31日現在) 全国で3番目に低い
- ◆介護・支援を要する認知症高齢者数(平成22年3月推計)約9万人
- ◆認知症患者数(平成20年10月推計) 1.1万人
- ◆若年期の認知症者数(平成22年1月1日推計) 約2.3千人
- ◆認知症サポーター数(平成23年1月31日現在)69,608人
- ◆キャラバン・メイト数(平成23年1月31日現在) 1,475人
- ◆認知症疾患医療センター数 5
- ◆認知症サポート医数 54人
- ◆かかりつけ医認知症対応  
向上研修修了者数 494人
- ◆電話相談の内容  
(平成21年度 右円グラフ)

相談内容	割合
認知症の理解・介護の方法・症状・問題行動	50.0%
介護者の健康・心の悩み	22.9%
医療関係	10.3%
人間関係・距離	7.6%
経済関係・成年後見関係	3.9%
その他	5.3%

**県内の市町村の状況**

高齢化率(22年3月) 最も多い世代—5歳階級  
(22年3月)

人口増加率(17年～22年)

- 団塊ジュニア世代が多く人口も増加しているが、今後急速に高齢化が進むと予想される都心に近い南部地域
- 団塊世代が多く、高齢化率が20%を超え人口が減少しているため、今後更に高齢化が進むと予想される都心から離れている北部地域
- 高齢化率が高く人口が減少している秩父地域

## 認知症地域支援体制構築等推進事業 4つの地域で実施

熊谷市22

久喜市21

小鹿野町21～22

平成19～20年度



さいたま市浦和区19～20

### ◆事業内容（NPOに委託、県は事業を進行管理）

✓アンケート調査の実施、子ども、学校、一般、専門家を対象とした啓発活動・研修の実施、地域資源マップの作成、フォーラムの開催

### ◆事業結果

✓多くの市町村で認知症サポーターの養成が遅れる中で、認知症についての啓発にはなったが、認知症の方や家族を支えるネットワークづくりには至らなかった。

✓マップの作成等要綱で義務付けられたこと以上の成果を出すには、モデルとして取り組みやすい地域性のあるところでの事業の実施する必要性を感じる。（etc. 医療と介護の連携、都市化の度合い…）

## 平成21年度（久喜市・小鹿野町）

医療と介護の連携の基盤があり取り組みやすい規模



### ◆事業内容（県は担当者へ先進事例を提供、相談を受けながら共に歩んで）

□久喜市（スクリーニングシート、パンフレット、小学生等へのサポーター養成講座、関係機関情報交換会、フォーラム等）

□小鹿野町（家族会の立ち上げ、センター方式の研修会、標語の募集、講演会、シンポジウム等）

### ◆事業結果

✓県全体のフォーラムを行ったところ、県内市町村のサポーター養成が進む中で、紹介した個別事業についての反応が良かった。

→その反応を地域での動きに変えるにはもうひと工夫必要。

✓モデル地域では、地域連携が図られ支援の体制が整ったが認知症の方の個別支援の事例を重ねるには至らなかった。

→より地域を見据え、時間をかけた事業展開が必要。

## 平成22年度（熊谷市・小鹿野町）



### ◆モデル地域（熊谷市・小鹿野町）

◆地域の関係者が集まって、地域づくりについて話し合う機会をつくるため、東京センターのご協力を得て、県内市町村合同セミナーを11月9日に開催

モデル地域の事業、認知症のご本人の方の思いを聞き、地域で何ができるか話し合い。いろいろな反響が。



認知症の方の思いを聞いてとても良かった。



地域の実態を知らない。



子供向けの認知症講座、メイトのネットワーク、家族会…やりたいことが色々

もっと情報がほしい。情報交換の場が欲しい。

熊谷市でも同様のセミナーを開催（2月16日）

## あらためて県内各地を見なおすと



### ◆モデル地域以外にもいろいろな動きが

- ✓市町村による認知症関連の講座の増加
- ✓郡市医師会による物忘れ相談医の名簿公開
- ✓郡単位での認知症支援のための連携の動き
- ✓キャラバン・メイトのネットワーク化
- ✓市町村単位での家族会の動き
- ✓介護関係者による啓発のための演劇活動
- ✓県立大学での若年性認知症のアートセラピーの開催(全国初)

県内には様々な動き・地域の資源がある。

## 認知症の方が地域で安心して生活を 続けていただくために…

- ◆モデル地域の経験からわかった、地域づくりのポイントとなるものを各市町村につくれないか。
  - 例えば、各市町村に家族会、メイトのネットワークをつくる
- ◆既存事業を取り組みアプローチを変え、また見直して地域づくりに結び付けられないか。
  - 例えば、サポート医やかかりつけ医のネットワーク化を推進、認知症介護研修修了者の活用
- ◆モデル事業も含む県内の先進的な取り組みや地域資源を活かせないか。
  - 例えば、先進的な取り組み情報を共有するシステムづくり

➢県は地域にあった苗を植え育てるお手伝い。



安心して暮らせる町づくりを  
町民とともにめざして！  
七転び八起きの小鹿野町のあゆみ



節分草

小鹿野町包括支援センター  
加藤 千春

1



小鹿野町は埼玉県西北部に位置し東は秩父市、西は群馬県上野村・神流町に接する。

古来より養蚕を中心とした物流等で上州・武州北部を含めた利根川以西の文化圏域を形成。

《電車利用》

- ・池袋から西武鉄道特急で約80分。  
西武秩父駅から町営バス、西武バスで約45分

《車利用》

- ・関越道花園ICから国道140号で秩父市経由、299号を小鹿野方面（花園ICから約45km）



保健福祉センター

(小鹿野中央病院に併設)

- ・福祉、障害担当
- ・保険担当
- ・健康増進担当
- 地域包括支援センター
- ・在宅介護担当
- 在宅介護支援センター
- 訪問看護ステーション
- ヘルパーステーション

国保町立小鹿野中央病院



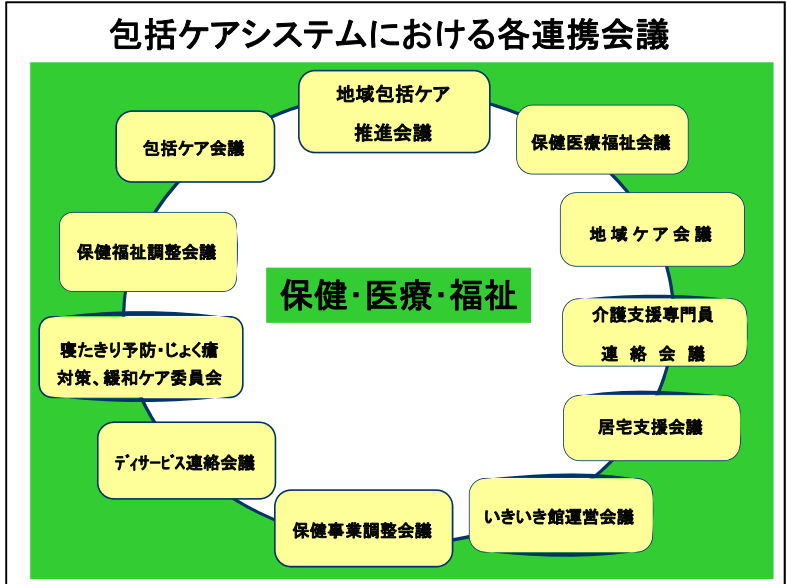
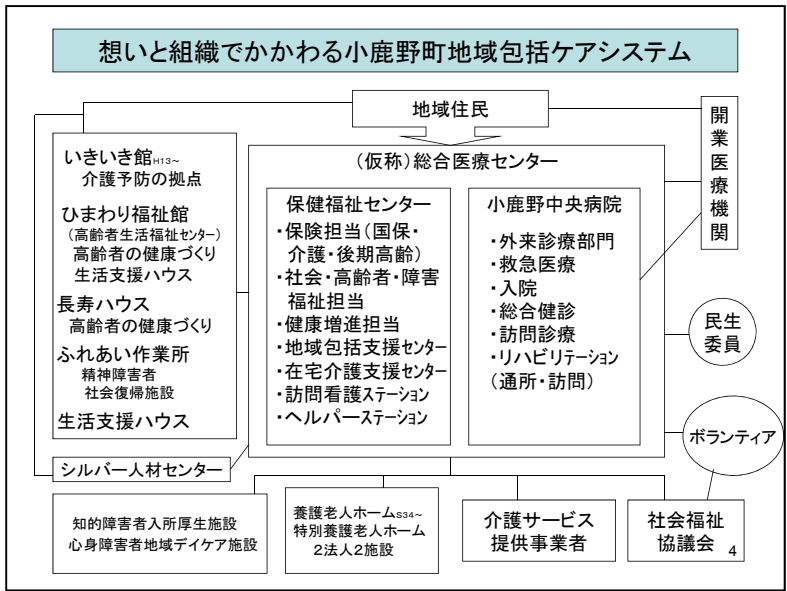
保健福祉センター入口



保健福祉センター内部







### 小鹿野町の高齢者の状況

- ・ 小鹿野町人口 13,698人(H23. 1. 1)
- ・ 高齢者人口 3,946人
- ・ 高齢化率 28.8%
- ・ 高齢化率は県2位 医療費は低い
- ・ 世帯数 4,883件
- ・ 高齢者単身世帯 583件(施設入所者を除く378件)
- ・ 限界集落 4ヶ所→5ヶ所
- ・ 認知症状が「ある」およそ200人
  - 在宅認定者(要支援・要介護認定者) 49.7%
  - 施設入所者 50.8%

# 1年目テーマ 「認知症の理解を広める」

『認知症になっても安心して暮らせる町づくり』推進メンバー

- 実行委員 17名  
認知症の方及び家族、ボランティア団体長、老人クラブ  
認知症サポーター、西秩父商工会、民生・児童委員  
小鹿野町社会福祉協議会、介護支援専門員、消防団  
警察、消防署、看護師、病院職員、町職員
- コーディネーター 4名  
医師、民生・児童委員会長、特別養護老人ホーム施設長
- コアチーム(事務局) 8名  
小鹿野町保健福祉課長・副課長・介護保険担当・福祉担当・  
保健師(健康増進・地域包括支援センター)

7

## 推進メンバーへの聞き取り調査により 浮かび上がってきた課題

- 認知症に対する理解が少ない
- 相談窓口があまり知られていない
- 本人・家族の支援が少ない
- 高齢者の閉じこもり
- 関係機関の連携不足



8

1年目最大の目標

### 課題1 認知症の理解

- どう対応したらよいかわからない
- 認知症に対する理解者が増えて欲しい。
- 周囲、近所の人の目や言葉「関わらない方がよい」

### 課題2 相談すること

- 周囲で認知症ではないかと気がついていても、役場に話すと  
問題が大きくなると思い、相談することをためらう
- 相談窓口がどこなのか地域の人に知られていない
- 個人情報の扱いが難しい

### 課題3 本人、家族の支援

- 初めは家族にも知識がなく、対応の仕方がわからなかった。
- 認知症と認めるまでに時間と勇気がいる。
- サービスを利用しないと家族が大変
- 主介護者、家族がうつになってしまった
- 認知症の人は常に不安な気持ちを抱えている。人がそばにいること、  
声をかけてくれることが何よりも大切である

9

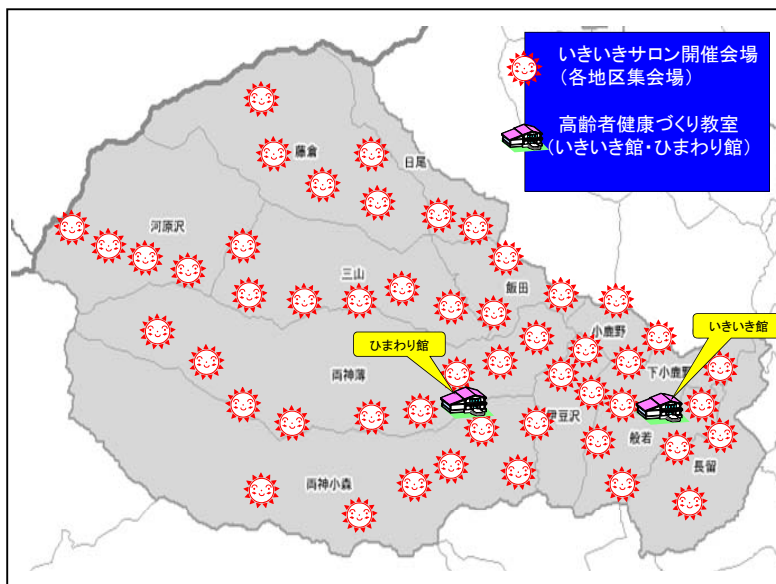
## 知識の普及の戦略

- 認知症サポーター養成講座で参加者を公募するのみでは、意識の高い人のみの参加で終わってしまう



全地区をまわる健康教室(いきいきサロン)でサポーター養成講座をおこない、あまり興味のない人にも知識をもってもらおう！

10



## 認知症家族会

- 認知症の家族を介護しているという同じ立場で、悩みを抱える介護者が集まり、素直に、安心して話し合いをする事が出来る場所づくり。
- 認知症に対する共通の理解や対応の仕方について考え、介護者の精神面で、少しでも介護負担の軽減がはかれる事を目的に開催。
- 月1回 定例会
- 会場 町内の施設内
- 時間 1時間30分



12

## 小鹿野町の家族会の歴史

- 思えば13～14年前・・・  
認知症家族の支援の必要性を感じて  
家族会開始

会場 デイサービスの隣にある地区集会所  
内容 体験談 勉強会

そして・・・数ヶ月で消滅・・・

原因は・・・？

- 参加者の減少
- 不定期開催
- 参加者同士の良かれと思つての発言が波紋をよぶ
- 後から知つた「身近すぎて話せない」

13

## 過去の教訓から

- ルールを決める
  - ①他の人の話を批判しない
  - ②話したくない時は話さなくて良い
  - ③ここでの話はここだけでおしまい
- 「集まる場があることが大切」の言葉に後押しされ・・・定例会にする



14

## 家族会の声

- 怒ってはいけないとわかっているが、怒ってしまい、自分で自分を責めてしまう
- 認知症介護の悩みはなかなか周囲に話せない。理解してもらえない
- 安心して話せるところがあることがありがたい
- もっとメンバーが増えるといいな



15

- 相談窓口の設立・周知
- おたっしや便利帳作成・全戸配布
- 傾聴ボランティア養成講座
- 標語募集(町内小・中学生・一般)優秀賞を看にし、町内に掲示
- 小鹿野町健康ふれあいフェスティバル (テーマ:認知症)  
(町立病院・社会福祉協議会・保健福祉課共同開催)
- 講演会「認知症とともに過ごす」  
講師:認知症の人と家族の会 埼玉県支部 副代表 花俣 ふみ代氏
- シンポジウム「認知症について考えるつどい」
  - 基調講演「認知症高齢者を支えるには～医療と介護の連携～」  
講師:本間医院 本間 信 医師
  - 今までの暮らしを続けるために  
(パネリスト:家族会・民生委員・特別養護老人ホーム職員・グループホーム職員・地域包括支援センター)
  - 音楽から学び、楽しもう～よみがえる、青春～  
シュールベルク ドレミ会音楽教室 豊田明生 氏・ひと美氏

16

**2年目** 今年度のテーマ  
『顔が見える』  
～安心できる人のつながり～

**昨年度の事業での行き詰まり**

- ・ サポーターは増えたけど・・・そのまま終わり
- ・ 相談窓口はつくったけど・・・相談がこない
- ・ 家族会はつくったけど・・・1回目は14名の参加！現在2～3人。人数が減っていく。
- ・ 堅苦しい実行委員推進会議になってしまった。
- ・ このままではいけない！！

17

**認知症勉強会**

- ・ 認知症の人への対応の仕方などを  
座談会形式で学びました。

講師 認知症ケア専門士

山田 芳子 看護師

認知症サポーター  
を対象に  
もっと理解を深めよう

講師の山田さんが  
とてもユニークな先生でした。  
みんなで、楽しく、真剣に  
学ぶ事ができました♪



18

## 認知症予防講演会

もっと理解を深める

◎生活習慣病から予防する

埼玉県立大学 教授 小牧 宏一 氏

相談窓口もPR!

◎音楽のしらべ

音楽療法士 志賀 佳苗 氏

一日一日の生活で、まだまだ予防できる  
事があるのだと気付きました!

懐かしい曲をかけると、母と一緒に歌って  
くれました。思い出話もしてくれて。



19

そこから  
生まれた

## バンビの会

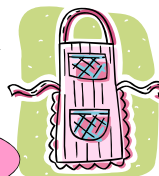


- 音楽で楽しみながら、認知症を予防する会
- 今後は自主的なサークル化?
- 目標は、発表会!! (夢は大きく!)

講師: 志賀 佳苗 先生 (音楽療法士)

先生のエプロンがバンビの  
模様だった事から、この名前  
になりました。

小鹿野町なので



20

## 実行委員会の行き詰まり

失敗を糧に

活発な意見交換を期待!

地域ですでに活躍している人、  
意欲のある人、意見を出す人など  
選りすぐりのメンバーをそろえて、  
いざ、出陣!!



21

新たに出陣した実行委員会であったが・・・

- またもや、堅苦しい雰囲気
- 大変用心深い発言、発言にちゅうちょする
- 事業の承認だけの会議・・・



## 高齢者見守りネットワーク

- 最初のおもわく・・・  
相談に来るのを待つのではなく  
地域の中に相談までの  
ルートをつくろう！

「最近、姿を見ないけど、気になるな・・・。」  
「新聞が何日もたまっている。どうしたのかな？」  
などなど

ちょっと気になる事を、包括支援センターに  
相談する方法をみんなで考えていけたら・・・

23

## 高齢者見守りネットワーク会議

地域の関心のある人に

「人と人がつながる為に、どんな事が必要  
か？」と問いかけて、一緒に考えました。

<出た意見>

- ◎ まずは普段のお付き合い。自然に話せる近所の  
つながり。井戸端会議など
- ◎ 付き合いのない人は早めの介入が必要
- ◎ 気軽に話しかけられる関係性、距離の近さ
- ◎ 地域での理解を深める

24

住民の生活に密着した関わりをして欲しい！  
すでに、困っている人が居る。  
その人達の役にたつことを  
すぐに実践して欲しい！！

こんな会議  
やっている  
場合ではない  
と言われ…



- 参加した方々の思いのこもった声！  
認知症支援は、早急に必要！（焦り）

しかし、何から手をつければいいのか…（涙）

25

ネットワークづくり実践者の声を聞こう！！

## 高齢者見守りネットワーク講演会

- NPO法人 めくもり福祉会 たんぽぽ
- 会長 桑山 和子氏

一人では無理な事でも、あきらめない、  
必ずみつかるはず。

見つけてみよう！を実践していると、  
だんだん“つながり”一人ではなくなる。

まず、言ってみる事。話してみる事。動いてみる事。

26

## アンケートに寄せられた意見

- 気づく事。見守る事。毎日の散歩のコースを変え、気になる方の近くを歩くことで安全を確認できる。
- 引きこもりの人たちが集える所をつくりたい。
- こうした所へ出て来た人が話し合っって何か行動を起こす。
- 配食サービスもそれだけでなく、高齢者とつながる方法を考える。

27



## 壁にぶつかって、撃沈



その後、実践編で「やる気のある人」を募ったが具体的な活動につなげられず、声を活かせなかった…。

こちらの思わくとして…

- 本当は、やる気のある人が集まって行動を起こすものにしたかった…
- 主体性といって、こちらの望むものを押し付けてしまった。
- いきなり主体性と言われると、住民が戸惑ってしまったのか？  
→焦りすぎた！急ぎすぎた！
- 一緒に活動を盛り上げていけるような活動につなげていけなかった。

28

## 出来そうで、出来ない、ジレンマ

地域

やる気のある人はいる  
何かやりたい人もいる  
地域の力はある

行政

もうちょっとでつながれそうなのに！  
どうすりゃいいのさあ…

- 住民の声を活かしたい！
- 会議→気楽に発言できる集まりに。

**認知症について考える会、立ち上げ予定！**

よーっ！

まずは、現に活動しているボランティアを充実しよう！！

29

## 地域に根づく、傾聴ボランティア！

- 「傾聴ボランティアの会」設立！
- デイサービスで活動開始 養成講座開始
- 出来る人が、出来る範囲で から2年目！
- 今度は、自宅へ訪問してみたい！  
様々な意見が活発に飛び交う会へ！

今年の4月からは、社会福祉協議会の登録ボランティア団体に。

30

## 高齢者安心見守り協力店

- 地域で安心して暮らせるように高齢者を温かく見守ってほしい。
- 困った事があれば、包括に！
- 商店や銀行、農協など1件1件歩いて訪問。  
(200件)
- 賛同店にはパンフレット掲載・ステッカー！
- 認知症について説明



31

### 9割が「認知症って大変な問題だよ。」と協力

こんな声も・・・

- ・見守りは協力するが、名前をあげると責任があるので、協力店としては加盟できない。(影で協力します)
- ・ステッカーを貼るだけで何か意味がある？(でも、協力するよ)
- ・(店員が)高齢だから・・・。

- 今までつながっていなかった人々と出会える！
- 私たち(包括)のことを知ってもらおう！
- こつこつ、足でかせぐ大切さ！

32

### 地域に出かけてみて・・・

自分たちの知らない「見守り活動」を知った！

- 新聞配達店  
3日間新聞がたまっていたら報告。
- お客さんが困っていたら、家まで送る。
- 店先が交流広場。
- 様子が変わっていく(身なり等)人がいる。  
「心配だな」、「ちゃんと帰れたかな・・・」
- 泥棒が入ると何度も鍵を交換。警察に相談。

33

## さらに！町の強みを活かして

- もっとわかりやすく理解を深めたい！！
- 町の強みは、『歌舞伎！』町民が役者  
だめもとで歌舞伎サークルに  
働きかける  
「やってみようかな！」と協力してもらう。



やったー！！



34

## 認知症について考えるつどい

- 講演会 「誰もが安心して暮らせる小鹿野町に！～ちょっと、いっしょに考えよう～」  
認知症介護研究・研修東京センター永田 久美子氏
- 歌舞伎調芝居  
「認知症春暦～みとめしるやまいのはるごよみ～」  
出演 歌舞伎サークルうぶ
- 認知症予防体操に挑戦♪
- 町の取り組みについて  
平成23年3月13日(日)午後1時30分～4時

35

## ぽつり、ぽつり、 成果が出た・・・かな？

- 相談が来るようになった！  
銀行から「何度も来て、お金が入ってないと言う。」  
警察から「徘徊している人がいる。」  
住民から「家族が認知症かもしれない。」  
役場から「年金をもらってないと窓口に来ている。」  
などなど・・・
- 住民の主体的な活動と一緒に歩み中！
- 芝居の練習中に出たメンバーからの意見を芝居に活かす。
- こちらの意見も取り入れてもらう。

36

## 得られた宝

- 住民と同じ目線で！急がず、焦らず。
- ぽつり、ぽつり、つながる！
- 続けることの大切さ！
- 「やってみようかな」の輪

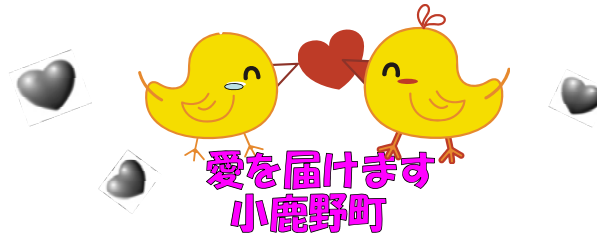
共に学習し、共に歩む！  
道と一緒に探し、求めましょう！！



心が和む場所で、笑顔で過ごせる町になるように…。

37

多くの方々に支えられ、出会えた皆様に心からありがとうございました。



そして、会場の皆様ありがとうございました。

38

## 認知症地域資源ネットワーク構築

～モデル事業が終わってからの1年～

岸和田市高齢介護課  
庄司 彰義

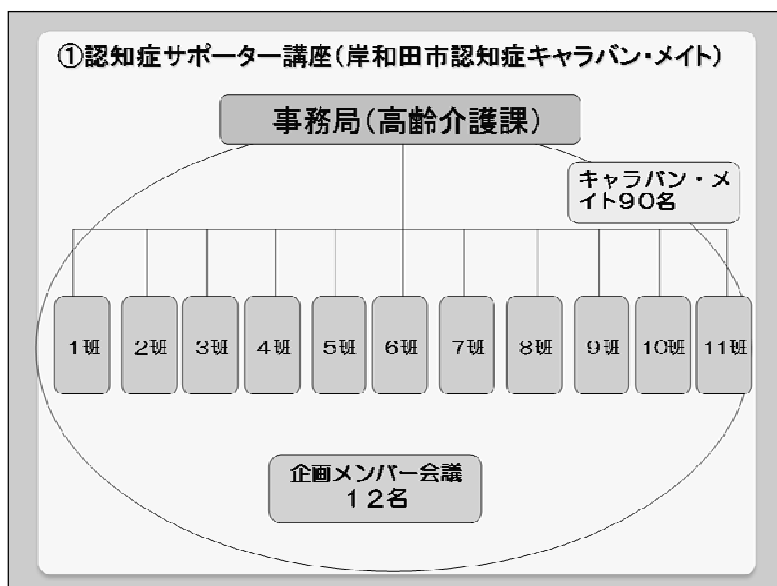
## 岸和田市

- 人口202,981人（1月現在）
- 高齢化率 21.5%
- 後期高齢化率 9.6%
- 介護認定 8,804人
- 認知症日常生活自立度  
以上3,250人  
（うち65歳未満63人）
- 地域包括支援センター  
委託型3箇所



## 平成21年度(モデル事業時の内容)

- ① 認知症サポーター養成
- ② 徘徊見守りネットワーク
- ③ 認知症予防のための取組み
- ④ 専門職研修(出張研修)
- ⑤ 医療と介護の連携  
(かかりつけ医認知症対応力向上研修・資源マップ)
- ⑥ 介護者家族のつどい
- ⑦ 高齢者虐待防止研修
- ⑧ 認知症フォーラム  
既存のネットワークや、住民・民間の力の活用



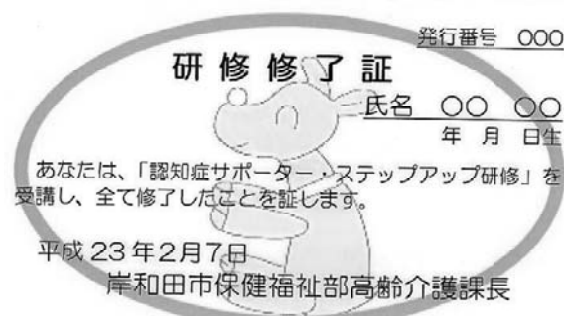
## 平成22年度(モデル事業が終わり)

- ① 認知症サポーター養成講座
  - ・市職員対象に18回 計415人
  - ・認知症サポーターステップアップ研修(4日間)

サポーターステップアップ研修(企画メンバーが中心となり)

初日	認知症の医学的理解(医師による講義)
2日目	グループワーク 基本症状や行動心理症状へのかかわりなど
3日目	現場体験(デイサービス、グループホーム、特養など)、2~3時間
4日目	報告会(研修終えて気付いたこと、学んだこと、サポーターとしてやりたいことなど)

## 認知症サポーター ステップアップ研修終了証(手作り)



## ② 認知症等見守りネットワーク

- 警察との協議
- 泉州地域(南大阪)での徘徊ネットワークセミナー
- 岸和田市のネットワークの構築と、広域連携。
- 大きく2つのネットワーク  
行方不明の時の早期発見を目指すネットワークと、  
行方不明にならない(安心して徘徊できる)見守りネットワーク。

## ③ 認知症予防

- 住民のニーズが一番高い
- 介護予防教室(運動)や認知症予防教室(脳リフレッシュ、ゲームやレクリエーション)
- 「自分たちで予防できる地域づくり！」を

## ④ 専門職研修(出張研修)

- 研修会を開催しても参加できない専門職
- 出張研修すれば多くの人が学べる
- 講師役は市内の事業所から募り、講師の養成、研修マニュアル作成
- 認知症介護指導者を中心としたWG(2ヶ月ごと)
- 講師 28人(6つの班に分ける)
- 研修 平成22年度から、22回
- 受講者 483人(サポーター講座も兼ねる)
- 講師全体会(年2回)
- 23年度 次のステップへ

## ⑤ 医療と介護の連携

- 認知症かかりつけ医対応力向上研修
  1. 平成21年度 62名の医師
  2. 平成22年度 10名の医師
- 平成22年度から、医療との連携会議(年3回)医師会4名、地域包括支援センター3箇所、高齢介護課、他
- 平成23年度、かかりつけ医への連絡ツールの検討や、テーマ別の研修

## 平成22年度かかりつけ医 認知症対応力向上研修

### 平成22年度研修

1. 認知症の人の支援 (高齢介護課)
2. 基本知識・診断 (サポート医)
3. 治療とケア (サポート医)
4. 連 携 (地域包括支援センター)

## あんしんネットワーク会議に地域の医師も参加 (住民、地域包括、社協、ケアマネ、CSW等)





## 資源マップをつくろう！（平成21年度）



## ⑥ 介護者家族のつどい

- 家族会の協力と、行政、社協、地域包括センター、CSW、ケアマネジャー等と一緒に、介護している家族の方々と話し合う機会をもった。
- 平成21年12月に「とりあえず1回やってみよう！」から始まり、次回で4回目



## 若年認知症支援者養成研修

・NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンターの主催で5日間の研修

初日	若年認知症とは
2日目	支援のための制度活用
3日目	本人交流会の進め方
4日目	アロマテラピーを活用したリラクゼーション
5日目	本人と家族への支援のあり方について

・平成23年度 本人や家族が集まり、交流できる場へ

## ⑦ 高齢者虐待防止の普及啓発

- 専門職の高齢者虐待防止のための研修が必要だが、研修機会が少ない
- 各施設に出向き、「高齢者虐待防止を考える」というテーマで出前講座。

平成21年度、施設等で15回。市民講座で3回

平成22年度、4回、市民対象 2回

平成23年度、居宅サービス事業所へ(出張研修のメニューとして)

## 高齢者虐待防止研修アンケートより

(施設の研修)

- 施設でも全職員が言葉の暴力は虐待であると認識できるよう働きかけていきたい。
- 自分を振り返る機会になってよかった。
- いつも心にひっかかっていた内容だった。
- 施設内で委員会として取り組んでおり、気付きについて参考になった。

(住民対象の研修)

- これからの高齢者社会の時代に、他人ごとではなく、わが身に振り返り考えたいと思う。
- 養護者に対する支援が法律にあると知り救われる気持ちです。1人で抱え込まず相談すべきと感じました。

## ⑧ 認知症フォーラム(介護セミナー)

- 年1回 住民対象のセミナー  
平成19年度から、昨年で4回目  
(講演や寸劇、パネルディスカッション)



## きっかけの21年度、継続の22年度、 そして23年度へ

- モデルの1年目(21年度)からの継続と拡大(22年度)
- 23年度より事業化
- 新たな取組みとして・・・
- 第3次地域福祉計画の策定
- 大阪府全体の取組みとして

# 大阪府における 認知症地域支援体制構築等 推進事業の取り組み状況

平成23年3月4日  
大阪府福祉部高齢介護室介護支援課  
花川 勝美

## ⑩認知症対策専門部会の提案

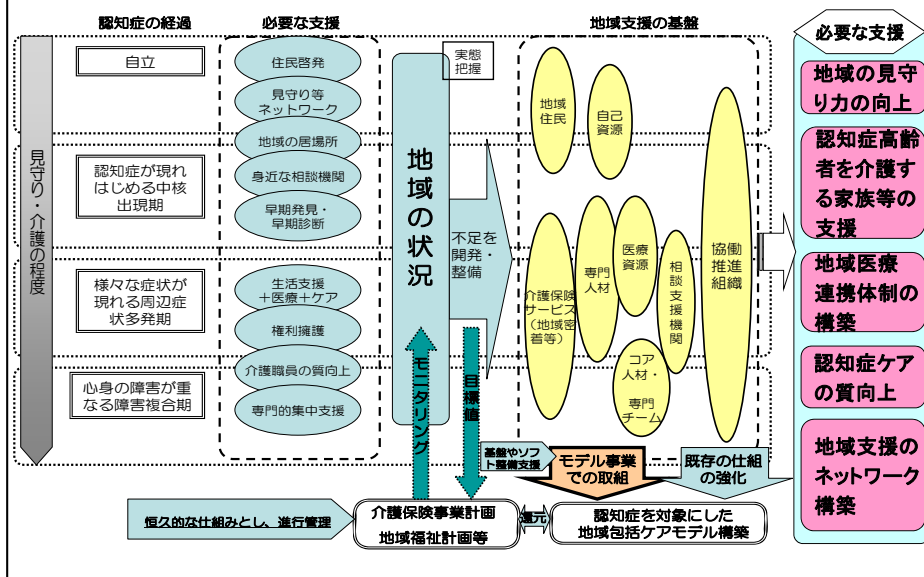
**認知症にやさしい地域づくりをめざす**  
(認知症高齢者の地域包括ケアの実現)

◇介護を家族のみに頼ることはこれまで以上に困難  
◇増える行政需要に対して面的に支える必要

### 「面的」に支える仕組みづくり

医療・福祉分野のサービス等の充実強化に加え、住民・多様な社会資源の参加を通じて、**地域の中で生活を「面的」に支える仕組みづくりの実践**

## 認知症の状態像や症状等(見守り・介護の程度)に応じた支援体制



## 平成19～20年度の取組み

- 市町村(保険者)単位の実施を基本
- 府保健所が取組む市町村を支援
- 平成19年度に3ヶ所でスタート

モデル地域

守口保健所(守口・門真市)

藤井寺保健所(藤井寺市)

富田林保健所(河内長野市)

### 重点取組事項(モデル地域における検討課題の実践)

モデル地域の強みを活かしながら、地域ごとに重点取組事項を設定し、モデル事業の期間内で、その取組の検討成果を共有する

	守口保健所	藤井寺保健所	富田林保健所
テーマ	認知症ケアの質の向上	認知症高齢者の地域の見守り力の向上	地域医療連携
取組	認知症高齢者を介護する家族等の支援 認知症高齢者へサービスを提供する事業所支援 介護者(家族等)支援	住民啓発による認知症に対する理解促進 認知症サポーターと回塊の世代を活用した認知症高齢者の見守り体制の構築	認知症の地域医療連携体制の構築
検討課題	支援に関わるスタッフによる認知症高齢者への指導スキルを有した自発的な支援プログラムとノウハウの開発検討 家族会支援のための活動支援団体や支援ボランティアの育成・拡充方策検討	認知症サポーターの養成と具体の難力化方策(地域づくり)の検討 回塊の世代への認知症に関する地域活動参加への促進	かかりつけ医、地域の専門医、専門医療機関の連携・機能分化のあり方検討 (地域密着型サービス事業所との連携方策の検討)
共通事項	ネットワーク構築のための協働推進体制(地域包括ケア体制)のあり方		

※( )は発展型としての検討課題

## 認知症モデル事業取組内容・取組成果

### 認知症高齢者の地域の見守り力の向上

- 認知症サポーターの養成とそのフォローの仕組みづくりに取組み、地域の見守り体制を構築。
- 回塊の世代を認知症高齢者の支援の担い手とする「親父パーティー」を立ち上げ、認知症アウトイベントを開催するなど、認知症に関する地域活動参加を促進。
- 徘徊高齢者の早期発見システムを構築。

### 認知症高齢者を介護する家族等の支援

- 家族会支援のための取組として、家族会メンバーを講師とした講演会の開催や市民向けキャンペーンを協働開催。
- 家族セミナーを開催し、家族会立ち上げの契機とした。

### 地域医療連携体制の構築

- 地域医療連携として、地域での「診・診連携」、「病診連携」、「認知症疾患医療センターとの連携」などの体制整備。

### 認知症ケアの質向上

- 介護職員のスキルアップとして、グループホームでの回想法の実施・普及。

### ネットワーク構築のための協働推進体制(地域包括ケア体制)のあり方

- 推進会議、ネットワーク研究会の設置や多職種による講演会・研修会の開催など、それぞれの地域資源が集う場の提供を行い、ネットワーク化を推進。

地域支援体制の府内市町村への普及

### 認知症対策専門部会の提案

- 地域でのネットワークの構築をはじめ、モデル地域での成果は、具体的取組事例を通じて、広めることが有効。

- 市町村や地域包括支援センター向けの研修などで、事例報告を行い、普及展開。
- 他の市町村での取組を、府保健所により後方支援する方法により展開。

地域支援体制の府内市町村への普及

- 認知症サポート医養成の強化。
- 市町村職員をメンバーとした高齢者施策戦略会議認知症対策分科会を開催し、認知症施策について検討。
- モデル地域での成果をもとに普及のモデルとして岸和田市(岸和田保健所)において事業実施。
- モデル地域での成果を普及するため、市町村向け認知症セミナーを開催。

## 認知症サポート医養成の強化 (認知症サポート医の今後の活用方策について)

- ・ 府において、平成21～23年度の3カ年で、地域医療・介護連携の推進役、かかりつけ医認知症対応力向上研修の企画、講師役としての認知症サポート医を政令市を除く各地域医師会に1～2名の養成する。
- ・ 認知症サポート医と市町村が協力して、地域医師会(かかりつけ医)と地域包括支援センター等との連携体制の構築を目指す。
- ・ 認知症サポート医が企画、講師役として、市町村が支援し、地域医師会による「かかりつけ医認知症対応力向上研修」の開催する。

## 大阪府高齢者施策戦略会議認知症対策分科会について

### 分科会の開催目的

認知症の対策について、府と市町村が連携して、意見交換を行い、諸課題を整理し、解決策を検討する。

### 具体的には

- ・現状・課題の整理(なぜ取組めないかも含めて)
- ・現時点でのあるべき姿
- ・そのための具体的方法
- ・課題解決のための市町村としてできること、府の役割、国の役割(提言、要望)を提案としてまとめる。

### 分科会の進め方

- ・テーマ別に検討を行い、報告書としてまとめる。
- ・サポーター養成者の拡大と活用、フォローアップについて
- ・市町村を越える徘徊ネットワークの構築について
- ・かかりつけ医・サポート医・専門医・認知症疾患医療センターの役割と医療・介護関係者のネットワーク構築のために必要なこと
- ・グループホーム・小規模多機能型施設の現状と役割
- ・まとめ、報告書全体の構成についての検討

## モデル地域での取組

- 21年度は、前年度同様、市町村の取組みを保健所が支援する形で実施。  
実態としては、市町村が実施主体となり、保健所は予算執行のみ。
- ・ 岸和田市 (岸和田保健所)

## 認知症地域資源ネットワーク構築セミナー

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 内 容

- (1) 認知症対策の現状について
- (2) 認知症地域資源ネットワーク構築事業のモデル地域の報告  
(パネルディスカッション)

パネラー 黒田 研二 氏 (大阪府立大学教授・府認知症対策専門部会長)  
曾我部 ゆかり 氏 (くすのき広域連合主任)  
前原 由幸 氏 (藤井寺市地域包括支援センター長)  
塩田 広子 氏 (河内長野市介護高齢課主査(保健師))  
濱野 武義 氏 (守口保健所企画補佐)  
増井 香名子 氏 (藤井寺保健所副主査)  
岡田 久長 氏 (富田林保健所企画補佐)  
田中 克博 氏 (府介護支援課介護予防G課長補佐)

- (3) 情報交換会  
(全体討論)

- 4 閉 会

平成21年6月30日(火)  
大阪府立労働センター7階 708号室

## 第2回 認知症地域資源ネットワーク構築セミナー

- 1) 認知症対策事業のモデル地域等の報告  
～他地域の取り組みに学ぼう～
- 2) 講演  
～認知症地域支援体制づくりの推進に向けて～
- 3) 情報交換会  
～ネットワークづくりのコツを学ぼう～  
～わが地域の取り組みを考えよう～

平成22年3月30日(火)  
大阪府立労働センター7階

## 第2回 認知症地域資源ネットワーク構築セミナー プログラム

### ○あいさつ

### ○認知症対策事業のモデル地域等の報告 ～他地域の取り組みに学ぼう～

- 1) 岸和田市保健福祉部高齢介護課 主査 庄司 彰義 氏
- 2) 京丹後市健康長寿福祉部長寿福祉課 京丹後市地域包括支援センター 保健師 竹内 歩己 氏
- 3) 伊賀市役所健康福祉部 伊賀市地域包括支援センター 主任 二階堂 樹 氏

### ○講演 ～認知症地域支援体制づくりの推進に向けて～

認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室長 永田 久美子 氏

### ○情報交換会(パネルディスカッション) ～ネットワークづくりのコツを学ぼう～

コーディネーター  
大阪府立大学人間社会学部 教授 黒田 研二 氏

パネリスト  
認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室長 永田 久美子 氏  
京丹後市健康長寿福祉部長寿福祉課 京丹後市地域包括支援センター保健師 竹内 歩己 氏  
伊賀市役所健康福祉部 伊賀市地域包括支援センター 主任 二階堂 樹 氏  
岸和田市保健福祉部高齢介護課 主査 庄司 彰義 氏  
藤井寺市地域包括支援センター センター長 前原 由幸 氏

### ○情報交換会(グループワーク) ～わが地域の取り組みを考えよう～

### ○情報交換会(グループワーク報告等)

## 第2回認知症地域資源ネットワーク構築セミナー

### アンケート集計結果 一部抜粋

- \* 行政が中心にならないと、包括がいくらがんばっても何も動かない
- \* 行政にやろうという意欲がない。モデル事業や絶対しないといけない事業としておてくれば、重い腰を上げると思うが、それでは良くない。現状でどう働きかけるか、難しい。まずはそこから考えないといけない
- \* 本日のセミナーは、行政サイドの役割をしっかりとっているところが大半のように思った。
- \* 成果ばかりでなく、苦勞したところや工夫点を伺えたのでよかった
- \* モデル事業でなくてもできることは見つかったが、モデル事業だからできることの方が多く思う。どうすれば動けるのか、このセミナーを機会に市全域で検討できたらと思う
- \* 市職員の方と同じ研修を受けたことで、認識の共有がはかれたら幸いです
- \* 「お金がなくてもやれる」ということを、行政としても大いに活用したい
- \* 行政の役割と包括との連携が重要と感じている
- \* モデル事業を行わなかった自治体の取組。特に直営ではなく委託をうけている包括の取組や課題などに焦点をあてたセミナーや指導を行ってほしい

## 平成22年度の取組み

認知症・高齢者虐待防止市町村担当課長連絡会議

認知症地域支援体制構築等普及推進会議

認知症地域資源ネットワーク構築セミナー

モデル地域での取組

## 認知症・高齢者虐待防止市町村担当課長連絡会議

1 開 会

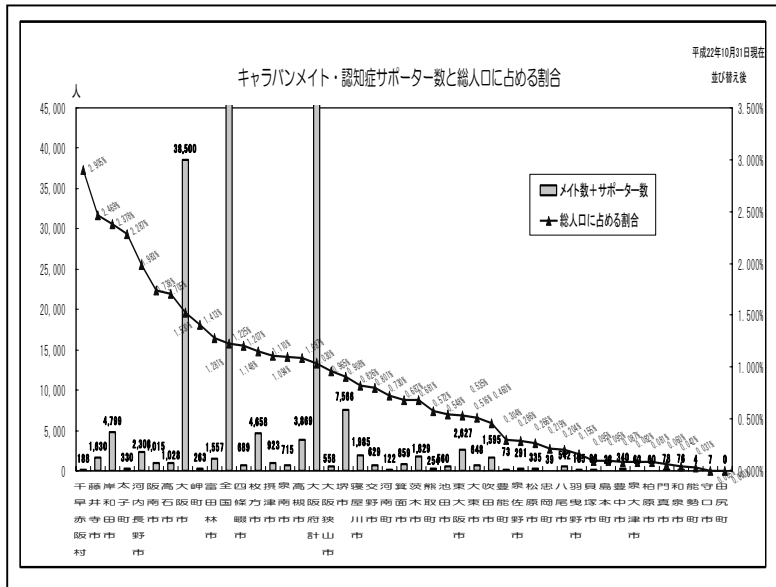
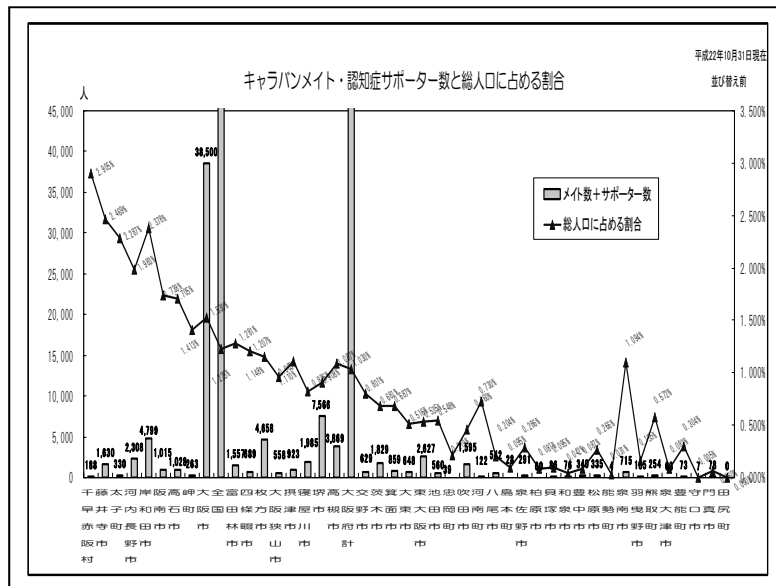
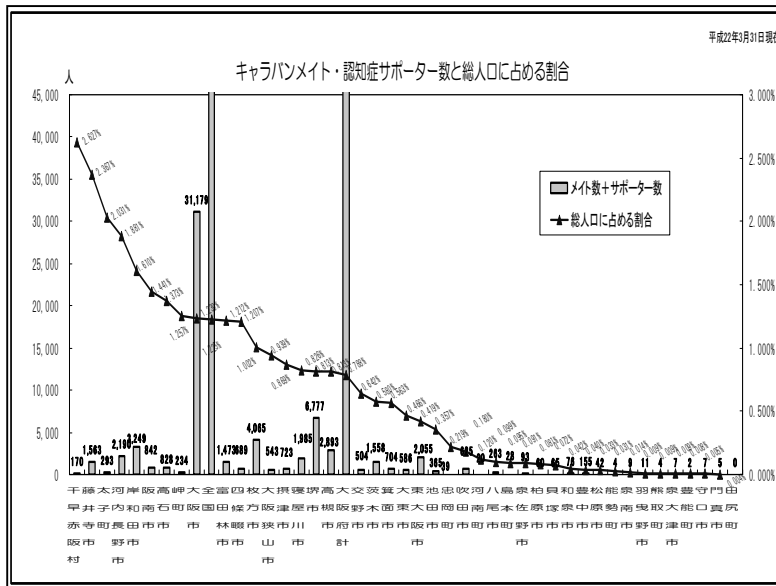
2 挨拶

3 議 題

- 1) 大阪府高齢者施策戦略レポート2010年 認知症対策分科会報告
- 2) 平成22年度大阪府認知症対策について
  - ①今年度のとりくみについて
  - ②認知症サポート医について
  - ③認知症介護実践リーダー研修修了者のネットワーク化
- 3) 平成22年度大阪府高齢者虐待防止の取組について
- 4) 孤独死防止と見守りについて
- 5) サポーター養成講座開催のポイントについて
- 6) 意見交換等

平成22年6月2日(水)  
マッセ大阪映像研修広場





## 認知症地域支援体制構築等普及推進会議

(市町村職員等によるワーキンググループ)

- モデル実施市町村(19～22年度)及び認知症に積極的に取り組んでいる市町村を中心に取組みについての情報交換
- 認知症地域資源ネットワーク構築モデル事業の成果の普及方策の検討
- 認知症地域資源ネットワーク構築セミナーの企画・運営

## 認知症地域資源ネットワーク構築セミナー

- 認知症地域支援体制構築等普及推進会議が、企画・運営。
  - 各圏域ごとに取組みテーマを決定し、実施。(6回程度開催)
- ↓
- 結果として、ブロックで徘徊SOSをテーマに2か所開催。  
全体で、認知症サポーター養成、医療連携、キャラバン・メイトフォローアップ(メイトグランプリ)、3モデル報告をテーマに4回開催。

## 泉州ブロック 大阪府認知症地域資源ネットワーク構築セミナー

平成23年1月24日  
岸和田市立福祉総合センター 1階大教室

内容

1. 徘徊をめぐる現状と徘徊見守りネットワークの取り組みの意味について  
大阪府高齢介護課  
岸和田市 高齢介護課 庄司彰義氏
2. 大阪府下での取り組み  
認知症高齢者徘徊ネットワーク構築について  
報告者 河内長野市 介護高齢課 塩田広子氏  
河内地域の広域ネットワークの構築について  
報告者 富田林市 高齢介護課 大北俊治氏
3. 情報交換 ① 泉州ブロックの市町村での取り組み 泉佐野市 泉南市  
② みんなで無理なくとりくめる  
それぞれの地域での見守りネットワークとは

参加者 市町村認知症対策担当者・地域包括支援センタースタッフ 78名

## 大阪府認知症地域資源ネットワーク構築セミナー (in北摂)

平成23年2月4日  
高槻市立文化会館 501号室

### 内容

- 1、徘徊をめぐる現状と  
徘徊見守りネットワークの取り組みの意味について  
大阪府高齢介護室介護支援課
- 2、大阪府内での取り組み  
徘徊高齢者SOSネットワークについて  
報告者 河内長野市介護高齢課 園山直人氏  
認知症徘徊模擬訓練実施報告  
報告者 大阪狭山市地域包括支援センター  
橋野建史氏
- 3、情報交換

参加者 56名

## 大阪府認知症地域資源ネットワーク構築セミナー “認知症サポーターとめざすまちづくり”

平成23年3月3日(木)  
大阪府社会福祉会館501号室

### 内容

- 実践報告  
富士宮市での取り組み  
富士宮市保健福祉部福祉総合相談課  
稲垣康次氏  
大阪府内での取り組み  
各認知症サポーター事業取り組み市町村
- 情報交換  
各市町村での取り組みと今後の取り組みについて

## 大阪府認知症地域資源ネットワーク構築セミナー (医療連携版)

平成23年3月9日(水)  
大阪府社会福祉会館501号室

### 内容

- 認知症の方を地域で支える医療のしくみ  
大阪府医師会 理事 中尾正俊氏
- 情報交換  
各市町村での取り組みと今後の取り組みについて

## 大阪府キャラバン・メイトフォローアップ研修 (Mーグランプリ)

平成23年3月19日(土)  
ドーンセンター 1階 パフォーマンススペース

内容  
開会あいさつ

キャラバン・メイトフォローアップ研修

講演 ”認知症について、もう一度確認しておこう”  
新阿武山病院 認知症疾患医療センター医師 森本一成 氏

Mーグランプリ(サポーター養成講座デモンストレーション)

講評 ”サポーター養成講座で伝えていきたいこと”  
特定非営利活動法人 認知症の人とみんなのサポートセンター  
代表 沖田裕子 氏

## 第3回 大阪府認知症地域資源ネットワーク構築セミナー

平成23年3月23日(水)  
大阪社会福祉指導センター多目的ホール

内容(詳細未定)

- 開会あいさつ
- 平成22年度モデル地域の報告
  - ・泉南市
  - ・寝屋川市
  - ・富田林市
- 講演  
認知症介護研究・研修東京センター  
研究部副部長 ケアマネジメント推進室長 永田 久美子氏
- その他

## モデル地域での取組

- 22年度は、市町村、地域包括支援センターの主体的な取組みを促すため、市町村を実施主体とした委託事業として実施。
  - ・ 泉南市
  - ・ 富田林市
  - ・ 寝屋川市

## 平成23年度に向けて

- モデル事業及びセミナー開催により、認知症地域支援体制の構築の意義、取り組み方法は周知済



- 認知症地域支援体制構築等普及推進会議（市町村 職員等によるワーキンググループ）を中心に、市町村からの情報収集及びその発信



わが地域のあゆみとこれからについて・・・

## 町づくりフォーラム

富士宮市福祉総合相談課

主任主査 稲垣康次



## 富士宮市の現状

(2010. 4. 1現在)

人口		135,764人
高齢者数		29,545人
高齢化率		21.76%
認知症高齢者 日常生活自立度Ⅰ以上	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している	3,092人
認知症高齢者 日常生活自立度Ⅱ以上	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる	2,440人
認知症高齢者 日常生活自立度Ⅲ以上	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	1,346人

## 富士宮市の取組み(モデル事業)

1:未来志向研究プロジェクト事業 H17・18

◇福祉総合相談ネットワーク

2:認知症地域支援体制構築等推進事業 H19・20

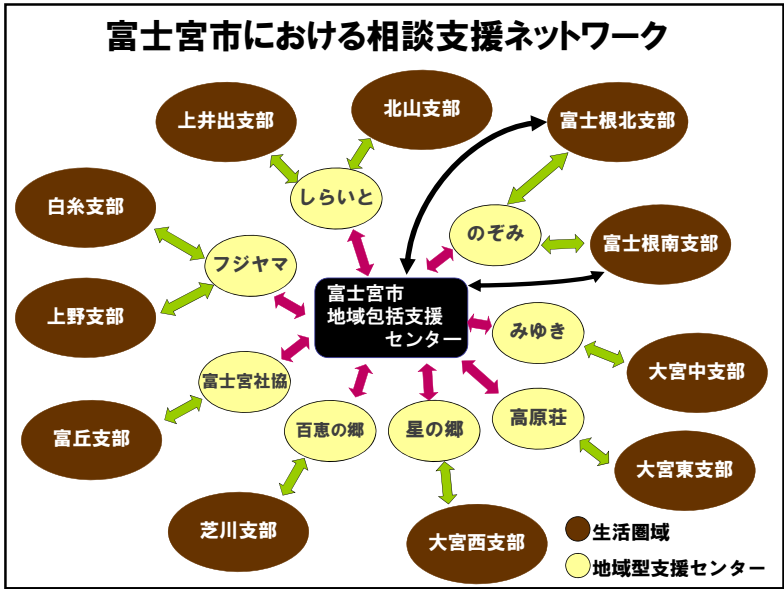
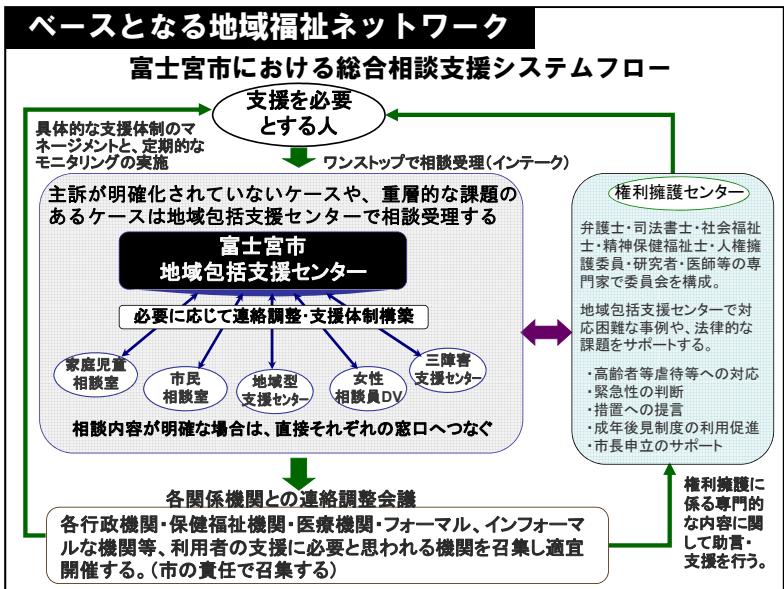
◇未来志向プロジェクトでイメージしたネットワーク(フォーマル・インフォーマル)を、認知症をひとつの切り口として、ひとつひとつ具体化していく。

3:市町村地域包括ケア推進事業 H22・23

◇医療・福祉・住宅・雇用などの問題から、全体計画を再構築する。

◇認知症地域支援体制で構築したネットワークの強化

◇福祉総合相談システム導入による相談業務の効率化



平成19年 モデル事業のスタート

ベースとなる  
地域福祉ネットワーク

+

認知症見守り機能

追加していく!!

あまり地域モデルのない中、事業の要綱には、「地域資源マップ作成」や「徘徊SOSネットワーク模擬訓練」などの活動目標が羅列されていたが、それ以前にやるべきことが...

富士宮市の理想・目標  
認知症本人・ご家族にとって本当に必要な支援を考えること

➡

何をもって、「認知症見守りネットワーク」というのか  
これが先決

富士宮市の地域福祉ネットワークをベースに  
認知症見守りネットワーク機能を付加させるための  
**5つのステップ図**を作成

地域資源調査研究 地域福祉ネットワークに認知症見守り機能を付加する取組み

認知症の趣旨普及・啓蒙ネットワーク

第1ステップ：自助力を高める (市民向け認知症講座)

第2ステップ：互助・共助力を高める (サポーター養成講座)

本人・家族からの相談を受け入れ、受容、治療へとつなげるためのネットワーク

第3ステップ：本人・家族への相談窓口の紹介

(早期発見・早期治療体制の構築)

リスクの高い(虐待・消費者被害・徘徊等)高齢者の発見から専門機関へつなぐネットワーク

第4ステップ：相談窓口の紹介、相談体制の確保

第5ステップ：介護者支援ネットワーク

(家族介護者の支援・家族介護教室の開催)

認知症介護研究研修東京センター主催  
平成20年第1回の合同セミナー

若年性認知症当事者の話を初めて聞いた

衝撃が走った...

何もわからず、  
この仕事をしていることに気づいた

ガーン!!

そんな時、佐野光孝さんに出会った...

認知症の方や家族にとって本当に必要な支援とは？

若年性認知症の方から学んだこと

佐野光孝さん 58歳

ある日突然、佐野光孝さんと奥さんが地域包括支援センターの窓口にとられました。

- ・あと少して60歳。できる限り働きたい!
- ・なんとか働けるなら...ボランティアでもいい。
- ・営業マンだったので、人と会話するのが得意。
- ・人と接することが好き。
- ・観光が好き。
- ・富士宮焼きそばを...色々な店で食べたことがある。

妻



- ・家に閉じこもってしまうと、病気が進行してしまう。
- ・安心して出かけられる場所がほしい。
- ・夫にできることがないかしら...?
- ・夫にできることは、なにかしら?



夫

(認知症本人)

夫の思い

一家の主として、1人の男として...

家庭を支えることができない虚しさ

働いて収入を得、自分が家族を支えたいというプライドある 収入を得られない悔しさ

閉じこもった生活からの脱出(人との関わりを持つ)



まずは…「好きなこと」で、「できそうなこと」を探してみよう!!

何よりも夫が楽しみ・生きがい・社会との関わりが持てるような場所があればなあ…

観光…ボランティア…焼きそば…

営業マンだった経験・性格・2人の生活リズム・特技・趣味を考えると…

そうだ!!

焼きそばボランティア!!

シルバー人材センターを紹介  
しかし…  
「うちでは、受け入れられません。病気が治ってから来てください。」と言われてしまいました。

そこで、認知症について…  
できること・できないこと  
認知症はどんな病気か?  
を説明しに行きました。  
しかし、労務管理等の理由から受け入れてはもらえませんでした。

トップランナーの役員を務めていた「くらしの相談課長(市職員)」の所に、  
夫妻を連れて相談へ…

病気を抱えていますか…  
ボランティアに参加できますか?

大丈夫!!

実際に見学して様子を見てから決めることに…

まちづくりトップランナー富士宮本舗(NPO法人)が運営する「焼きそばの観光案内所(まちづくりサロン宮つ)」  
帰りに観光案内所を見に行ってもらおうことに…

夫妻との出会いで…

夫妻

少しでも差別や偏見がなくなり  
より多くの人の理解が得られます  
ように…

人・社会と関わるようになった。  
講演を成し遂げた時、達成感・充実感を得られる。  
収入に繋がっている。  
社会貢献・地域貢献しているという自信。

認知症になっても住み慣れた地域  
で誰もが自分らしく笑顔で暮らせる  
社会を目指し…

理解の輪

認知症を理解してみんなで  
支えあおう

地域住民

認知症の方やその家族・知人にとって、  
夫妻が認知症と向き合う姿は希望となる。  
生の声から認知症を学ぶ。  
やさしいまちづくりのきっかけとなっている。

富士宮市

就労支援・生きがい対策など若年性認知症の方とその家族への支援のスキルを学んでいる。  
事業所職員の育成の貢献(認知症ケアの向上)に繋がっている。

今  
後

就労支援・生きがい対策・本人や家族への正しい知識の普及  
医療機関との連携  
観光資源へのサポーター養成講座の積極的な展開など、まちぐるみでやさしいまちづくりを

### 家族会との連携

- ・ 家族会(さくら会)の会員(20人)とのワークショップを通じて、家族介護者支援策について報告書をまとめる。
- ・ 定例的に報告会を実施
- ・ メンバー


さくら会員  
市介護障害支援課職員  
地域包括支援センター職員  
社会福祉協議会職員

### さくら会からの聞き取りによる家族介護の負担感

— 認知症のある家族が介護するときに感じる負担感 —

介護に対する役割・負担		能力		介護環境	
<p><b>役割</b></p> <p>認知症のある家族の介護は、介護者の役割が非常に重要である。介護者は、認知症のある家族の生活を支えるだけでなく、認知症の進行を遅らせるためのケアを行う必要がある。また、認知症のある家族の安全を確保することも重要な役割である。</p>	<p><b>負担</b></p> <p>認知症のある家族の介護には、身体的負担、精神的負担、経済的負担などがある。身体的負担は、認知症のある家族の介護に長時間を要することによる疲労や腰痛などである。精神的負担は、認知症のある家族の介護に悩むことによるストレスや不安などである。経済的負担は、認知症のある家族の介護に必要な費用がかかることによる経済的困窮などである。</p>	<p><b>能力</b></p> <p>認知症のある家族の介護には、介護者の能力が非常に重要である。介護者は、認知症のある家族の生活を支えるだけでなく、認知症の進行を遅らせるためのケアを行う必要がある。また、認知症のある家族の安全を確保することも重要な能力である。</p>	<p><b>介護環境</b></p> <p>認知症のある家族の介護には、介護環境が非常に重要である。介護者は、認知症のある家族の生活を支えるだけでなく、認知症の進行を遅らせるためのケアを行う必要がある。また、認知症のある家族の安全を確保することも重要な環境である。</p>	<p><b>介護環境</b></p> <p>認知症のある家族の介護には、介護環境が非常に重要である。介護者は、認知症のある家族の生活を支えるだけでなく、認知症の進行を遅らせるためのケアを行う必要がある。また、認知症のある家族の安全を確保することも重要な環境である。</p>	<p><b>介護環境</b></p> <p>認知症のある家族の介護には、介護環境が非常に重要である。介護者は、認知症のある家族の生活を支えるだけでなく、認知症の進行を遅らせるためのケアを行う必要がある。また、認知症のある家族の安全を確保することも重要な環境である。</p>





### 認知症介護研究研修東京センター主催 合同セミナー他地域の事例発表を聞いて・・・

他地域事例	感じたこと 
<p><b>熊本県山鹿市</b></p> <p>医師も市民も同じテーブルについて、認知症の問題を一緒に考えていた。</p>	<p>医師を動かすのは行政ではなくて住民であることがわかった。</p>
<p><b>宮城県庁</b></p> <p>県庁職員自らが、モデル地域の実態調査に乗り出していた。</p>	<p>地域の実情を知らずに、対策に乗り出す愚かさを痛感した。</p>
<p><b>長野県飯綱町</b></p> <p>住民自らが主体となって、住民に啓発するための紙芝居やサンバを手作りで作成していた。</p>	<p>本当に地域を動かす力を秘めているのは住民であることがわかった。</p>

### 市内に広がっていく認知症サポーター

推移（累計）	H18	H19	H20	H21	～H23.12	計
認知症サポーター数	35人 [1回開催]	572人 [10回開催]	1,687人 [54回開催]	2,698人 [82回開催]	1,555人 [50回開催]	6,547人 [197回開催]
キャラバンメイト数	14人	6人	158人	2人	58人	238人

#### 富士宮市における認知症サポーター養成への取り組み

<p>▶自治会 ▶寄り合い処（地域サロン） ▶老人クラブ ▶民生委員 ▶趣味サークル（卓球サークル・キターサークル） ▶子ども会 ▶学童クラブ ▶子育てサークル ▶消防団 など</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>民</b></p> </div>	<p>▶商店街 ▶旅館料理組合 ▶小売店（HAC・セブ'ンイレブ'ン・マイナートなど） ▶タクシー協会 ▶コープ静岡 ▶ヤクルト など</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>産</b></p> </div>
<p>▶高校 ▶中学校 ▶小学校</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>学</b></p> </div>	<p>▶富士宮市職員 ▶富士宮市消防本部 ▶富士宮警察 など</p> <div style="text-align: center;">  <p><b>官</b></p> </div>

## 認知症見守りネットワークセミナー開催(富士宮市主催)

リレー発表		発表の部	発表時間	発表者
1	本職者の活動	坂本 幸子 氏	11:00 - 11:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
2	本行事務局の活動	斎藤 真由 氏	11:30 - 11:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
～お茶の時間～				
3	キャラバンメイトの活動	川崎 幸子 氏	12:00 - 12:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
4	キャラクターズの活動	川崎 幸子 氏	12:30 - 12:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
～お茶の時間～				
5	キャラバンメイトの活動	川崎 幸子 氏	13:00 - 13:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
6	子育での活動	川崎 幸子 氏	13:30 - 13:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
7	子育てでの子育での活動	川崎 幸子 氏	14:00 - 14:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
8	富士根南小学校児童の活動	川崎 幸子 氏	14:30 - 14:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
9	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	15:00 - 15:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
10	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	15:30 - 15:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
11	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	16:00 - 16:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
12	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	16:30 - 16:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
13	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	17:00 - 17:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
14	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	17:30 - 17:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
15	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	18:00 - 18:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
16	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	18:30 - 18:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
17	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	19:00 - 19:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
18	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	19:30 - 19:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
19	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	20:00 - 20:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
20	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	20:30 - 20:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
21	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	21:00 - 21:00	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」
22	富士根南小学校での子育-基礎講座	川崎 幸子 氏	21:30 - 21:30	認知症高齢者グループホーム「あまのつばき」

様々な分野で活動者が増え…  
↓  
本人・家族・地域の支援者たちが  
集結しセミナーに参加  
↓  
自分たちの活動や思いを発表しよう。  
↓  
思いを共有し、  
つながり合う新たな活動へ!!  
↓  
活きた仲間(ネットワーク)となり…

様々な社会資源が  
つながっていく!!



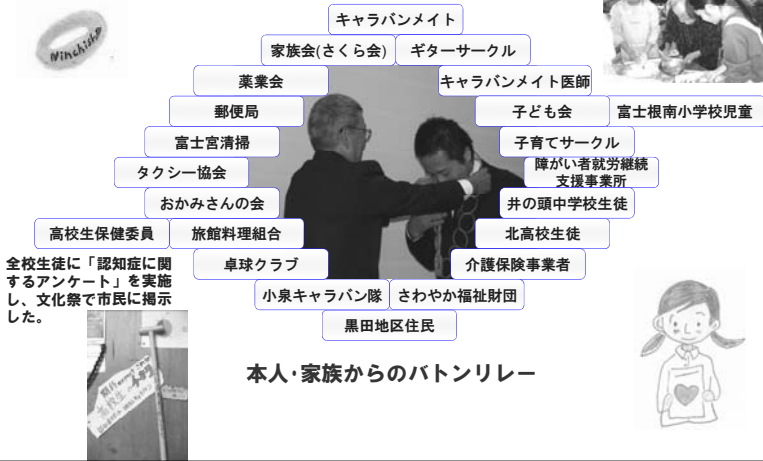
Hiromi F.

## 本人・家族にとどく支援を目指し…

社会福祉協議会・事業所の協力

グループホームでのボランティアへ

### 自主的な活動事例



全校生徒に「認知症に関するアンケート」を実施し、文化祭で市民に掲示した。

## これまでの活動でこれを学んだ!!

どこの地域も最初から認知症の方を支援できる力を持ち合わせているわけではない。

↓  
地域で暮らしている認知症の方や家族とともに悩み、  
自治体(地域包括支援センター)自身が  
認知症の方を支援できるだけの、力(知識・技術)を  
身につけることができるか? が最大のポイント!!

なによりも、地域包括支援センターの職員自身が成長していくために・  
H22ネットワークセミナー 講師 宮城県庁 斎藤さん  
H23.1 介護保険事業者連絡協議会との合同視察研修 大牟田市、山鹿市  
H23.2 キャラバンメイトフォローアップ研修 講師 長野県飯綱町 坂本さん

## 視察・取材件数

H21	21件 島根県雲南市、広島県呉市、山口県庁、山形県寒河江市など
H22	44件 神奈川県南足柄市、愛知県日進市、三重県御浜町など

視察から学んだこと・・・

先進地と呼ばれることへの不安

他地域の方々とじっくり話をすることによって・・・  
自己の振り返り（自分たちが取り組んできたことの確認）

まだまだ解決しなければならない課題が山積している・・・

山鹿市市外にも・・・

徘徊高齢者見守り

新潟県南魚沼市

小地域ケア会議

岡山県総社市

（南足柄市とは防災協定を締結）

## 富士宮市からのメッセージを受けて ～南足柄市の取り組み～

神奈川県南足柄市 鳥居貴子



## 南足柄市

平成23年1月

人口	44,401人
高齢者数	10,655人
高齢化率	23.99%

平成21年4月

認知症高齢者 日常生活自立度 以上	637人 (56.1%)
認知症高齢者 日常生活自立度 以上	343人 (30.2%)



## せっかくのモデル事業

まずは

認知症サポーター養成講座  
認知症家族のつどい

この2つの事業をしっかりと！！  
あとは何をしたらいいのだろう・・・？  
認知症支援マップはどうしよう・・・？

## 富士宮市の稲垣さん

はじめて話を聞いたのは

「神奈川県セミナー」

2回目に話を聞いたのは

「認知症モデル事業合同セミナー」

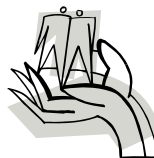
この人すごい！！

視察に行きたい！



## メッセージ1

誰のために活動するのか？  
誰のためのツールなのか？



本当に認知症の方や  
その家族のためになっているか？

## メッセージ2

地域が持っている資源は  
地域によって様々である。



他地域の活動は  
プロセスにこそ学ぶべきものがある！！  
他地域の活動やツールをそのまま真似ても意味がない

## 南足柄市の取り組み①

実態把握および市民の方がより身近な問題として考えてもらえるための統計調査



地域のことをたくさん知ろう！！

## まずスタッフで何を 情報収集するのか考えた

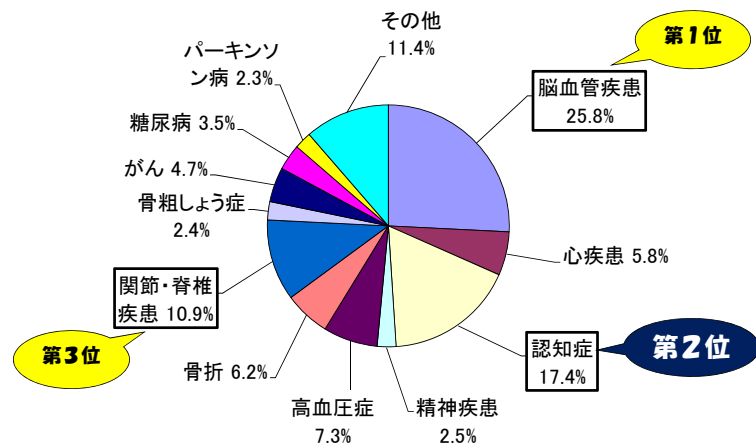
介護保険申請者の統計  
認知症サポーター養成講座受講者  
に対して「認知症」の意識調査  
現場のケアマネジャーの声  
認知症家族のつどい参加者のアンケート



形だけの認知症支援マップにしたい

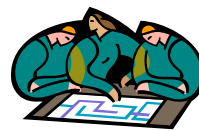
## 原因の2位は、認知症

平成19年度 要支援要介護認定者原因疾患別割合(南足柄市)



## ケアマネジャーからの声

みんなで考えた！



「認知症介護において  
問題となっていること」

介護サービス・本人家族の思い  
地域の医療・地域の理解・・・



## 一部ですが・・・（地域）

近隣の人の見守りが必要

世間の理解が充分でない

本人の困りの状態を周りの人たちが  
受けとめてあげられない

認知症の理解が難しい

認知症に対しての理解知識がうすい

正しい知識を持っていない

地域の理解が難しい

地域でのサポート、協力体制をアップ  
金時隊とかあるけどもう少し何か...



## 良いことも！！

ボランティアの人達の協力がある事は力強い

家族の集い等同じ悩みが共有できる

認知症を対象とした講演などが増えている（家族の会なども含）

家族会等の講演が定期的開催されている

認知症の家族の会など同じような悩みを持つ方たちを話ができる  
こと

南足柄市では地区に認知症の講習会をやること

以前よりも介護(福祉)の情報が共有できること（ネットなど）

家族がインターネット等で病と理解、症状に向き合う（周辺症状  
を調べた等）

生活歴を介護に活かせる場がある

相談窓口がある



## 南足柄市の取り組み②

認知症家族のつどいの開催

何年か前に県が家族会を行ったが  
人が集まらなかった（閉鎖的）



この地域には認知症の家族会がない・・・

社会福祉協議会と一緒に検討

# 認知症事業 やってます！

開催日	場所	内容
平成22年10月29日(金) 10:00 ~ 12:00	市保健医療福祉センター 健康学習室	家族は、ざっばらんに おしゃべり会 ご本人は、魚釣りゲームに癒えます！
平成22年11月12日(金) 10:00 ~ 12:00	市保健医療福祉センター 健康学習室	【私が認知症と診断されて】 ～認知症と向き合って、ありのままの思い～ 講師：佐野光孝さん 明美さん
平成22年12月14日(火) 10:00 ~ 13:00	市女性センター 生活体験室・研修室・ 会議室	昼食は♪おやし俱樂部♪からのプレゼント！ 家族はおしゃべり会でお腹を空かせて ご本人もボウリング＆歌で盛り上げます
平成23年1月20日(木) 9:30 ~ 11:30	市保健医療福祉センター 健康学習室	【地域の資源を活用しよう】 ～医師の立場から見ると資源の使い方～ 大木医院 副院長 大木敦久 先生
平成23年2月15日(火) 10:00 ~ 12:00	市保健医療福祉センター 健康学習室	ご本人はバレンタインのなごりでチョコレートでコ ーヒタイム。家族はアロマでリラックス。 講師 アロマセラピスト 音原このみさん
平成23年3月29日(水) 10:00 ~ 12:00	市保健医療福祉センター 健康学習室	介護を続けていくために、リフレッシュ方法を体 験してみませんか？ 講師 福祉レクワーカー 高垣茂子さん



一人で悩まないで・・・



## 協力者に感謝！

### みなさんボランティア！！

本人参加者を受け入れ家族が参加しやす  
くするために・・・

市内のケアマネジャー

グループホームの職員

認知症対応デイサービスの職員

保健師のOB

他町の包括支援センター職員

家族の会神奈川県支部の方 など

## 南足柄市の取り組み③

### 認知症サポーター養成講座

サポーター養成 目標 2千人（2年間）

2月1日現在 43箇所 1825人

キャラバンメイトが増えず保健師がすべ  
ての講座を開催

プラス思考で考えると・・・

➡ いろいろな生の声が聞けました



## お人形の寄付もありました☆

南足柄市の花子さんと嫁のよう子さんです



## 南足柄市の取り組み④

チームで組んだモデル事業の  
コーディネーター  
地域・企業・学校など他機関の連携  
と情報



やってみないと

知らないことばかりだった！！

みんなで意見を交わせた第一歩！！



## これからの課題

< 課題だらけ・・・ >

まだまだ認知症の本人を近所の人に知られたくないと思う人がいる

認知症かな？と思っても、どの医療機関に行けばよいのかわからない

医療機関と包括支援センターとの連携が十分できていない



## そして・・・

保健師や看護師だけでは、まだ視野が狭い！

市役所という組織で、地域で「認知症対策」  
に取り組むという意識がまだ・・・



全ての職員に自分の問題と思って取り組んで  
もらえるアピールを今後も！！

## まだ始まったばかり！！

今がスタート地点  
「あせらず一歩一歩」



こんな風に思っ取り組んでいるのも  
富士宮市のお陰です！！



ご清聴ありがとうございました

2011.3.4 まちづくりフォーラム資料

「認知症になっても安心して暮らせるまち」に近づくために

## 地域資源がつながり、ともに動ける 協働のしくみをつくろう

熊本県山鹿市役所  
介護保険課 佐藤アキ

「認知症になっても安心して暮らせるまち」  
をめざして、住民と協働したい・・・と考える  
ときに・・・

- ◎ 高齢者本人のニーズと家族のニーズ、地域のニーズはずれて  
いることが多い。（でもどちらの思いもある）
- ◎ 住民には一部の情報しか伝わっていないことが多い。また、  
人の暮らしはさまざまな条件（環境）に縛られる。（幅広い  
選択肢や情報から選んだ上で行動している訳ではない）
- ◎ 現状では介護はまだ「家族の問題」と考えられている。  
（行政や専門職の意識ともずれがある）  
↓ これらを認識した上で・・・
- ◎ 本当に「介護の社会化」を進めるためには、声を上げていな  
い本人の声をまず聴くこと。家族を含めた環境を知ること。  
そして自分のこととして考えること。・・・それを共有する。
- ◎ その上で専門職がやるべきこと、住民同士でやるべきこと、  
を共に考えたい。

### 多くの市民の思いと必要なしくみ

- ◎ 基本的には「自分たちの地域を良くしたい、みんなが住みや  
すいまちにしたい。」と思っている人が多い
- ◎ お互いに支え合いが必要と感じている。でも具体的に何をど  
うしていいかわからない。→情報やノウハウを知るしくみ
- ◎ 顔見知りになっていないと、なかなか声もかけられない。拒  
否的な人には何も言えない。→知り合えるしくみ
- ◎ 民生委員やボランティア活動をしている人も、一部の人だけ  
では支えられないと感じている。→多くの人がかかわれるし  
くみ
- ◎ 支援の難しいケースが増えて、専門性がないと不安。→支援  
方法を学ぶしくみ、専門職と気軽につながれるしくみ

## さまざまな地域課題を解決していくための行政の役割

- ◎ 地域課題を専門職および地域の人と共有すること
- ◎ 地域の人々が自ら考えて動けるための環境づくり

具体的には

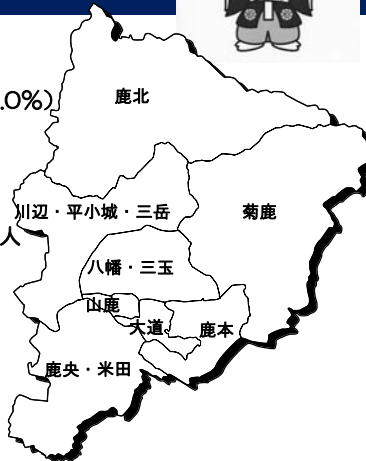


- ◎ 双方向の情報交換
- ◎ 適切な支援のできる人材育成（専門職・住民とも）
- ◎ 場づくり（知り合い、つながり、活動する）

## 山鹿市の現況



- ◎ 人口 57,192人 (H22年9月)
- ◎ 高齢者 17,187人 (高齢化率 30.0%)
- ◎ 要介護認定者数 3,570人  
(認定率20.8%)
- ◎ うち認知症日常生活自立度Ⅱ以上の人  
1731人 (高齢者の10%)
- ◎ 生活圏域 8圏域
- ◎ 地域包括支援センター 直営1か所



## 要介護高齢者の自立度分布

要支援者除く、介護保険サービス利用者（22年6月分）

		認知症自立度							
		自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M
障害自立度	自立								
	J1	虚弱		動ける認知症					
	J2	220人		807人					
	A1	11.0%		40.2%					
	A2								
	B1	寝たきり		寝たきり認知症					
	B2	205人		774人					
	C1	10.2%		38.6%					
C2									

## 山鹿市に現在ある 認知症の人を支える地域資源

- ◎ 認知症地域サポートリーダー  
→1期生～3期生 約300人（3期生養成中：専門職と地域住民）  
→キャラバンメイト 155人
- ◎ 認知症サポーター  
→約7000人（住民・小中学生・事業所など）
- ◎ 認知症疾患医療センターおよび強化型包括  
→それぞれに連携担当者
- ◎ 認知症地域支援ネットワーク研究会  
→専門医・かかりつけ医（医師会）・介護事業所・施設  
・ケアマネ・家族・地域の関係者・包括
- ◎ 徘徊SOSネットワーク、虐待防止ネットワーク関係機関  
→警察・消防関係含め関係行政機関・地域関係者

人や機関は増えても、みんなが  
つながらないと  
有効に支えられ  
ません！

## 小規模多機能ホーム 「いつでんどこでん」



- ◎ 平成15年、大道校区に開設。
- ◎ 介護保険デイサービス・高齢者や障がい者の住まいを併設
- ◎ 平成18年度より地域密着型サービス「小規模多機能居宅介護」事業所指定
- ◎ 「地域密着型サービス」とは：市町村が指定、監督権限。原則当該市町村の人のみが利用できる。地域住民が参加する「運営推進会議」の開催。
- ◎ 「運営推進会議」を活用しながら地域住民との課題共有をすすめる。
- ◎ 地域住民主体の法人「よんなっせ山鹿」設立（20年）、運営移行。理事長は元民生委員。

## 市町村にとっての地域密着型サービスとは

- ・ 指定、監督権限が得られたことをプラスに！
- ・ 交付金の活用により小規模市町村でも整備が可能。
- ・ 市町村の目指す福祉施策との連動が図れる。
- ・ 「介護保険の運営」というだけの視点から拡大し、「福祉施策全体」から考える視点へ・・・単なる介護サービスのメニューの1つでなく、さまざまな活用が可能な「拠点」という位置づけで考える

増え続ける「認知症の人」が地域で暮らすための中心となるサービス拠点

「地域に開かれた施設」として地域住民が気軽に入入り・交流・相談ができる拠点



このことを市民・事業所がともに認識を共有して、有効に活用できるようになるためには行政の支援や仕掛けが必要

保険者として事業所を育てる

行政活動として事業所と地域をつなぐ

## 「運営推進会議」を有効に活用しよう



事業所と住民と行政が顔を合わせるきっかけの機会・・・

目指すところは・・・

これまで受け身の立場だった地域住民が、介護サービスのありかたや地域の役割等について理解を深め、「自分たちの地域にとって必要なところ」「よりよいところにするために一緒に育てていこう」という気持ちで事業所と共に活動していけるようになる。

住民のありかたが事業所のありかたに反映する。サービスの質の担保にもなる。積極的に関わることが保険者としても得する！

そのために ↓

- 職員も必ず出席して情報収集や情報提供、啓発の場として活用する。
- 事例を通して共に認知症ケアについて学ぶ
- メンバー・スタッフの研修の場や利用者との日常的な交流の場を設定、支援する。
- 適切な話ができる家族や住民をメンバーに→市が養成した市民のサポートリーダーが2人ずつ参加

## いつでもどこでんのある大道校区の状況とやるべきこと

- ◎ 高齢者夫婦世帯・単身高齢者の増加（高齢者の57%が単身もしくは夫婦世帯）と認知症の人の増加
- ◎ 新興住宅・アパートの増加と子育て世帯の増加（出生数はもっとも多い）
- ◎ 「地縁」は希薄化



やること

- ◎ 閉じこもりやリスクのある高齢者を外に出し、地域とのつながりの中で早期支援や見守り体制をつくること
- ◎ 事業所や専門職とも連携しながら、認知症の人や家族が安心して暮らせる支援体制をつくること
- ◎ 孤立しがちな子育て世帯の「行き場」や地域とのつながりをつくること

## 地域住民と事業所、行政との協働手順

住民が中心となっていくこと（住民とともにいくこと）	支援のための具体的な事業や方法（事業所や専門職とともにいくこと）
地域の方と地域の課題を話し合う	運営推進会議等
地域住民が参加、集まる機会を増やす	徘徊模擬訓練（※1） 事業所イベント
認知症支援のための啓発、学習	認知症サポーター養成講座 徘徊模擬訓練 認知症の人と家族のつどい
具体的な事業を計画、実施 介護予防サロン 子育てサロン	介護予防拠点整備（※2） 介護予防サポーターや認知症サポートリーダーの紹介 子育てボランティアの紹介（社協）
継続的な事業の実施 サロンやイベント	実施ノウハウ支援 サポーター継続研修会の実施



## 徘徊模擬訓練や 徘徊SOSネットワークメール登録

- ◎ 小規模多機能ホームを拠点として地域住民が参加。地域の老人会・ボランティア等も協力、まちづくりイベントも合わせて実施。
- ◎ 徘徊による行方不明者を早期に保護するために、メール登録した人や事業所に情報配信、協力依頼。



## 模擬訓練を続けることによって



自転車で通りかかって

- ◎ 地域の中で必要性が理解され、地区行事として「模擬訓練」も位置づけ、主体的に実施されるようになった。
- ◎ 行方不明になることを未然に防ぐこともできるようになった（近隣の方の声かけ）
- ◎ 行方不明になった時に、発見までの時間が短縮できている。（地域の「探す力」が上がった）



農作業の手を止めて



家から出てきて

## 拠点整備と支援（地域密着型サービス・介護予防拠点等）

使える資源や場を増やす。  
専門職と地域とのつながりを作りやすくする。

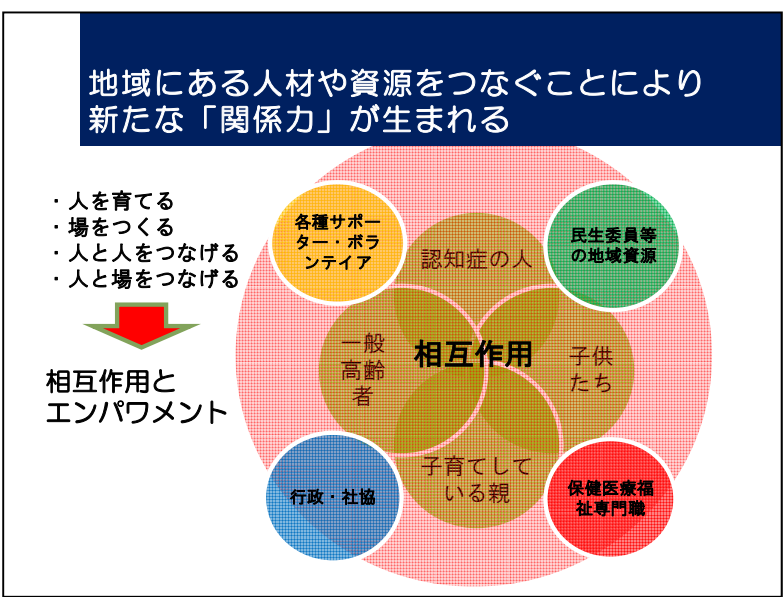
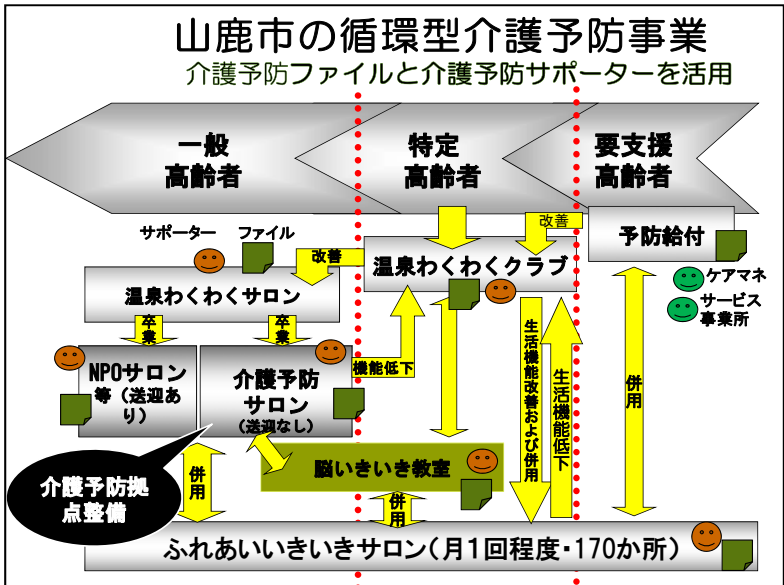
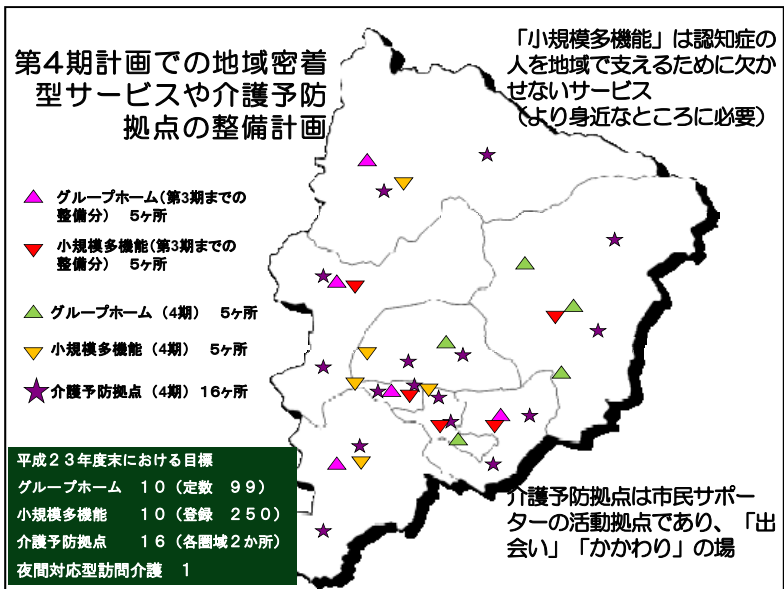
地域密着型サービスは認知症の人を地域で支えるための有効なサービス拠点。  
日常交流や相談窓口、徘徊模擬訓練の拠点、サポートリーダーの実習施設としても活用。

介護予防拠点も重要な活動拠点。  
（地域密着事業所・障がいの事業所・学童施設等との併設）

多様な場の設定による資源の開拓

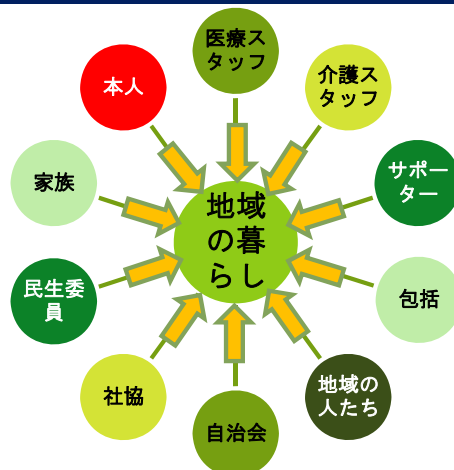
出会う機会のなかった人同士のつながりや新たな関係性が生まれる







支援を受ける当事者も、専門職も、地域の暮らしをつくる一員



課題や思いを共有する「仲間」が増えることで、地域の中でできることや場所が増えていく

- ◎ 市民リーダーによる介護サービスや支援の展開  
→小規模多機能、小規模デイ、自主事業等の実施
- ◎ MCI～軽度認知症の人のサービス拡充  
→NPO法人等による新たな事業所の開設  
介護予防拠点活動の拡充
- ◎ 権利擁護推進体制強化  
→成年後見センターの設立（22年11月・社協）と  
市民後見人の養成（次年度～）
- ◎ 生活支援サポーター養成  
→シルバー人材・社協・NPO等と連携、組織化し、個別ニーズに対応していく

声かけ続けると実現する

## 地域の課題を解決していける 「地域づくり」のために

- ◎ どの市町村も財源や地域資源には限りがある中で、自分のまちの「使える資源（人・物・場所・お金）」を探し、どう有効活用しながらまちづくりをすすめるかを真剣に、主体的に、組織横断的に考える時期です。
- ◎ 今、福祉施策は「広く」「深く」が求められています。事業者やそこにいる専門職も有効に活用し、地域課題に対し共に考え動くこと、さらにその上に住民活動が連動していけるしくみをつくる必要があります。
- ◎ 地域の人材や資源をつなぎ、さまざまな「地域の力」が生まれ、強化されていくしかけを考えたい。基本としては「情報の共有」「環境づくり」が行政の仕事です。

平成 22 年度老人保健健康増進等事業報告書  
全国の市区町村における官民産学が協働した  
認知症地域支援体制づくりの着実な展開にむけた  
総合的推進に関する調査研究事業報告書

＜別冊1＞

地域づくり事例篇

(認知症でもだいじょうぶ 町づくりフォーラム配布資料)

**発行元** 社会福祉法人 浴風会  
認知症介護研究・研修東京センター  
〒168-0071  
東京都杉並区高井戸西 1-12-1  
電話 03-3334-2173

**発行** 平成 23 年 3 月